

# 公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2019年度

東京大学大学院医学系研究科



## 目次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1. 修了要件	1
	2. 履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2
3. 時間割		3
4. 履修モデル		4～7
	「公衆衛生行政・管理」	4
	「保健アナリスト・コーディネーター」	5
	「臨床疫学・アウトカム評価」	6
	「医療情報・臨床工学」	7
5. シラバス		8～60
6. 公共健康医学専攻成績評価規則		61
7. 公共政策大学院との合併科目について		62～63
8. 国際保健学専攻との合併科目について		64～68

日 程	
S P Hガイダンス	4月 3日 (水)
入進学者ガイダンス	4月 4日 (木)
大学院入学式	4月12日 (金)
S 1ターム	4月 5日 (金) ~ 6月 4日 (火)
定期健康診断	4月中旬~6月上旬
S 2ターム	6月 5日 (水) ~ 7月30日 (火)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション：6月中旬~下旬
	希望調書提出 : 7月上旬~中旬
夏季休業期間	7月31日 (水) ~ 9月18日 (水)
A 1ターム	9月24日 (火) ~ 11月15日 (金)
A 2ターム	11月18日 (月) ~ 1月24日 (金)
Wターム	1月27日 (月) ~ 3月 5日 (木)
S P H課題研究論文	題目届提出期限： 11月20日 (水)
	論文提出期限： 12月13日 (金)
	発 表 会： 1月10日 (金)
学位記授与式	3月23日 (月) (予定)

時 限	1 時 限	8 : 3 0 ~ 1 0 : 1 5
	2 時 限	1 0 : 2 5 ~ 1 2 : 1 0
	3 時 限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 4 5
	4 時 限	1 4 : 5 5 ~ 1 6 : 4 0
	5 時 限	1 6 : 5 0 ~ 1 8 : 3 5
	6 時 限	1 8 : 4 5 ~ 2 0 : 3 0

# 1. 授業科目の履修について

## 1. 修了要件

コース		1年コース	2年コース	
標準修業年限		1年	2年	
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上		
修了要件	必修	①A：1科目+B：5科目の計6科目を履修		
		A：必須科目		
		科目番号	科目名	単位
		41918113	医学データの統計解析	2
B：下記の5つに分類されている必修科目を、各分類から1科目ずつ計5科目(各分類1科目以上、計5科目以上履修も可)				
分類	科目番号	科目名	単位	
1	41918111	疫学研究と実践	2	
	41918115	医学研究のデザイン	2	
2	41918211	精神保健学 I	2	
	41918213	健康教育学	2	
3	41918218	医療倫理学 I	2	
	41918220	社会と健康 I	2	
	41918316	法医学・医事法学	2	
4	41918311	健康医療政策学	2	
	41918312	医療情報システム学	2	
5	41918222	産業保健の理論と実践	2	
	41918322	環境健康医学	1	
		② 課題研究 (6単位)		
		(2年次に履修申請すること)		
選択科目	①選択科目(1年コースの課題研究は選択科目扱い)			
	②他専攻・他研究科(特に公共政策大学院)科目(8単位まで)			

注意事項：同一年度中に50単位を超えて履修科目を登録することはできません。

※ 通年科目はS1タームの単位として算入されます。(ただし、課題研究論文については1年コース所属学生の場合のみ、A1タームの履修単位として算入されます。)

## 2. 履修手続き

下記期間内に、学務システム(通称:UTAS)で履修登録を行ってください。

<参照> <https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/campusportal.do>

	S1	S2	A1	A2	W
履修登録期間	4/5~4/19		9/24~10/7		
履修登録追加期間	—	6/5~6/18	—	11/18~12/6	

## 2. 授業科目一覧

※講義室・講義日程が変更となる場合があるので掲示等を必ず確認すること。

頁	科目番号	授 業 科 目	単 位	ターム	曜日	時限等	担当教員
8	41918111	疫学研究と実践	2	S1・S2	金	2	佐々木 敏 教授
9	41918112	予防保健の実践と評価	2	夏季	集中	2~4	佐々木 敏 教授
10	41918113	医学データの統計解析	2	S1	木	3・4	松山 裕 教授
11	41918114	医学統計学演習	2	S2	木	3・4	大庭 幸治 准教授
12	41918115	医学研究のデザイン	2	S2	火	3・4	松山 裕 教授
13	41918116	臨床疫学	2	S2	水	1・2	康永 秀生 教授
14	41918117	臨床疫学・経済学演習	2	A1・A2	木	3・4	康永 秀生 教授
15	41918118	保健医療経済学	2	S1	水	1・2	康永 秀生 教授
16	41918120	医療コミュニケーション学	2	S1	火	3・4	木内 貴弘 教授
17	41918122	医療コミュニケーション学演習	2	S2	水	3・4	木内 貴弘 教授
18	41918124	医療技術評価学演習	1	A2	木	2	康永 秀生 教授
19	41918126	臨床医学概論	1	S1	木	2	康永 秀生 教授
20	41918127	医学研究データマネジメントとCDISC標準	1	A1	火	3	木内 貴弘 教授
21	41918128	がん疫学	1	A1	水	3	井上 真奈美 連携教授
22	41918211	精神保健学Ⅰ	2	S1・S2	火	5	川上 憲人 教授
23	41918212	精神保健学Ⅱ	2	A1・A2	火	5	川上 憲人 教授
24	41918213	健康教育学	2	A2	金	1・2	橋本 英樹 教授
25	41918214	健康社会学	2	A1	金	1・2	橋本 英樹 教授
26	41918218	医療倫理学Ⅰ	2	S1	木	5・6	赤林 朗 教授
27	41918219	医療倫理学Ⅱ	2	S2	木	5・6	瀧本 禎之 准教授
28	41918220	社会と健康Ⅰ	2	A1	木	1・2	近藤 尚己 准教授 橋本 英樹 教授 川上 憲人 教授
29	41918221	社会と健康Ⅱ	2	A2	金	3・4	近藤 尚己 准教授
30	41918222	産業保健の理論と実践	2	A1	水	1・2	川上 憲人 教授 大久保 靖司 教授
31	41918223	保健医療人材育成学	2	S1	火	1・2	大西 弘高 講師
32	41918224	学習者評価学	2	A1	火	1・2	大西 弘高 講師
33	41918225	Health Care and Community Health in Japan 日本の医療と地域保健	1	S2	月	4	川上 憲人 教授
34	41918311	健康医療政策学	2	A1・A2	月	5	小林 廉毅 教授 豊川 智之 准教授
35	41918312	医療情報システム学	2	S1	金	3・4	大江 和彦 教授
36	41918313	医療情報システム学実習	1	S2	木	1・2	大江 和彦 教授
37	41918316	法医学・医事法学	2	S1・S2	月	3	岩瀬 博太郎 教授 榎野 陽介 准教授
38	41918320	健康危機管理学	1	S1	月	1・2	小林 廉毅 教授
39	41918321	保健行政・健康危機管理学実習	2	夏季	集中		小林 廉毅 教授
40	41918322	Environmental Health 環境健康医学	1	S2	月	2	Yoonhee Kim 准教授
41	41918330	Methods for Environmental Health Research 環境健康医学研究方法論	1	A1	月	2	Yoonhee Kim 准教授
42	41918323	公共健康情報学	2	S2	金	3・4	小山 博史 教授
43	41918324	公共健康情報学演習	2	A1	金	3・4	小山 博史 教授
44	41918411	インターンシップ	2	夏季・A1・W			専攻長
45	41918511	公共健康医学特論	2	S1	月	4・5	専攻長
46	41918611	課題研究	6	通年			各指導教員
47	41918326	社会保障法政策	2	A1・A2	月	6	島崎 謙治 講師
48	41918328	国際保健政策学Ⅰ	2	S1・A1	火	3・4	渋谷健司 教授
49	41918329	国際保健政策学Ⅱ	2	A2・W	火	3・4	渋谷健司 教授
50	41918125	医療経営学演習	2	通年*			康永 秀生 教授 橋本 英樹 教授

- \* 講義室は、原則、医学部教育研究棟13階公共健康医学専攻（SPH）講義室
- \* 「法医学・医事法学演習」、「健康増進科学」は休講とする
- \* 「医療経営学演習」は2019年5月18日から11月2日までの土曜日に実施する。

3. 時間割(平成31年度案)

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5~6/4	6/5~7/31	8/1~9/18	9/24~11/15	11/18~1/24	1/27~3/5			
		9W	8W	7W	8W	10W	6W			
月	1	8:30 10:15	41918320- 健康危機管理学(1)	夏季休業					1	
	2	10:25 12:10			41918322-Environmental Health 環境健康医学(1)*5	41918330-Methods for Environmental Health Research 環 境健康医学研究方法論(1)【新規】			2	
	3	13:00 14:45	41918316-法医学・医事法学(2)*3						3	
	4	14:55 16:40	41918412- 公共健康医学特論(2)		41918225-日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan (1)					4
	5	16:50 18:35				41918311-健康医療政策学(2)*4				5
	6	18:45 20:30								6
火	1	8:30 10:15	41918223- 保健医療人材育成学 (2)	下記特記 事項参照		41918224- 学習者評価学(2)			1	
	2	10:25 12:10							2	
	3	13:00 14:45	41918120- 医療コミュニケーション学(2)		41918115- 医学研究のデザイン(2)*1	41918127-医学研究データマ ネジメントとCDISC標準(1)				3
	4	14:55 16:40								4
	5	16:50 18:35	41918211-精神保健学 I (2)*2		41918212-精神保健学 II (2)				5	
	6	18:45 20:30								6
水	1	8:30 10:15	41918118- 保健医療経済学(2)	41918116-臨床疫学(2)		41918222- 産業保健の理論と実 践(2)*5			1	
	2	10:25 12:10							2	
	3	13:00 14:45		41918122- 医療コミュニケーション学演習 (2)	41918128-がん疫学(1)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35							5	
	6	18:45 20:30							6	
木	1	8:30 10:15		41918313- 医療情報システム学実習(1)	41918220- 社会と健康 I (2)*3	41918124-医療技術 評価学演習(1)			1	
	2	10:25 12:10	41918126- 臨床医学概論(1)						2	
	3	13:00 14:45	41918113-医学データの 統計解析(2)**	41918114-医学統計学演 習(2)	41918117-臨床疫学・経済学演習(2)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35	41918218- 医療倫理学 I (2)*3	41918219- 医療倫理学 II (2)					5	
	6	18:45 20:30							6	
金	1	8:30 10:15			41918214- 健康社会学(2)	41918213- 健康教育学(2)*2			1	
	2	10:25 12:10	41918111-疫学研究と実践(2)*1						2	
	3	13:00 14:45	41918312- 医療情報システム学 (2)*4	41918323- 公共健康情報学(2)	41918324- 公共健康情報学演習 (2)	41918221- 社会と健康 II (2)			3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35							5	
	6	18:45 20:30							6	

業夏	8月	2週目	41918112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	1~2週目	41918321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休	通年		41918331 医療経営学演習

\*\* 必修科目  
\*1~5 選択必修科目

#### 4. 履修モデル

##### 履修モデル「公衆衛生行政・管理」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W		
曜日	時限	4/5～6/4	6/5～7/31	8/1～9/18	9/24～11/15	11/18～1/24	1/27～3/5		
		9W	8W	7W	8W	10W	6W		
月	1	41918320- 健康危機管理学(1)	41918322-Environmental Health 環境健康医学(1)*5	夏季休業	41918330-Methods for Environmental Health Research 環 境健康医学研究方法論(1)【新規】	41918311-健康医療政策学(2)*4		1	月
	2							2	
	3	41918316-法医学・医事法学(2)*3	3						
	4	41918412- 公共健康医学特論(2)	41918225-日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan (1)					4	
	5							5	
	6							6	
火	1	41918223- 保健医療人材育成学 (2)		下記特記 事項参照	41918224- 学習者評価学(2)			1	火
	2						2		
	3	41918120- 医療コミュニケーション学(2)	41918115- 医学研究のデザイン(2)*1		41918127-医学研究データマ ネジメントとCDISC標準(1)			3	
	4						4		
	5	41918211-精神保健学 I (2)*2			41918212-精神保健学 II (2)			5	
	6							6	
水	1	41918118- 保健医療経済学(2)	41918116-臨床疫学(2)	下記特記 事項参照	41918222- 産業保健の理論と実 践(2)*5			1	水
	2							2	
	3		41918122- 医療コミュニケーション学演習 (2)		41918128-がん疫学(1)			3	
	4							4	
	5							5	
	6							6	
木	1		41918313- 医療情報システム学実習(1)	下記特記 事項参照	41918220- 社会と健康 I (2)*3	41918124-医療技術 評価学演習(1)		1	木
	2	41918126- 臨床医学概論(1)						2	
	3	41918113-医学データの 統計解析(2)**	41918114-医学統計学演 習(2)		41918117-臨床疫学・経済学演習(2)			3	
	4							4	
	5	41918218- 医療倫理学 I (2)*3	41918219- 医療倫理学 II (2)					5	
	6							6	
金	1			下記特記 事項参照	41918214- 健康社会学(2)	41918213- 健康教育学(2)*2		1	金
	2	41918111-疫学研究と実践(2)*1						2	
	3	41918312- 医療情報システム学 (2)*4	41918323- 公共健康情報学(2)		41918324- 公共健康情報学演習 (2)	41918221- 社会と健康 II (2)		3	
	4							4	
	5							5	
	6							6	

業夏	8月	2週目	41918112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	1～2週目	41918321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休	通年		41918331 医療経営学演習

\*\* 必修科目

\*1～5 選択必修科目



履修モデル「保健アナリスト・コーディネーター」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W				
曜日		4/5～6/4	6/5～7/31	8/1～9/18	9/24～11/15	11/18～1/24	1/27～3/5				
時限		9W	8W	7W	8W	10W	6W				
月	1	8:30 10:15	41918320- 健康危機管理学(1)	夏季休業	41918330- Methods for Environmental Health Research 環 境健康医学研究方法論(1)【新規】				1		
	2	10:25 12:10	41918322-Environmental Health 環境健康医学(1)*5						2		
	3	13:00 14:45	41918316-法医学・医事法学(2)*3						3		
	4	14:55 16:40	41918412- 公共健康医学特論(2)						41918225-日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan (1)	4	
	5	16:50 18:35							41918311-健康医療政策学(2)*4	5	
	6	18:45 20:30								6	
火	1	8:30 10:15	41918223- 保健医療人材育成学 (2)	下記特記 事項参照	41918224- 学習者評価学(2)				1		
	2	10:25 12:10							41918127-医学研究データマ ネジメントとCDISC標準(1)	2	
	3	13:00 14:45	41918120- 医療コミュニケーション学(2)						41918115- 医学研究のデザイン(2)*1	3	
	4	14:55 16:40								4	
	5	16:50 18:35	41918211-精神保健学 I (2)*2						41918212-精神保健学 II (2)	5	
	6	18:45 20:30								6	
水	1	8:30 10:15	41918118- 保健医療経済学(2)	下記特記 事項参照	41918222- 産業保健の理論と実 践(2)*5				1		
	2	10:25 12:10	41918116-臨床疫学(2)						41918128-がん疫学(1)	2	
	3	13:00 14:45							41918122- 医療コミュニケーション学演習 (2)		3
	4	14:55 16:40									4
	5	16:50 18:35									5
	6	18:45 20:30									6
木	1	8:30 10:15		下記特記 事項参照	41918220- 社会と健康 I (2)*3	41918124-医療技術 評価学演習(1)			1		
	2	10:25 12:10	41918126- 臨床医学概論(1)						41918313- 医療情報システム学実習(1)	2	
	3	13:00 14:45	41918113-医学データの 統計解析(2)**						41918114-医学統計学演 習(2)	41918117-臨床疫学・経済学演習(2)	3
	4	14:55 16:40									4
	5	16:50 18:35	41918218- 医療倫理学 I (2)*3						41918219- 医療倫理学 II (2)		5
	6	18:45 20:30									6
金	1	8:30 10:15		下記特記 事項参照	41918214- 健康社会学(2)	41918213- 健康教育学(2)*2			1		
	2	10:25 12:10	41918111-疫学研究と実践(2)*1							2	
	3	13:00 14:45	41918312- 医療情報システム学 (2)*4						41918323- 公共健康情報学(2)	41918221- 社会と健康 II (2)	3
	4	14:55 16:40									4
	5	16:50 18:35									5
	6	18:45 20:30									6

業夏	8月	2週目	41918112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	1～2週目	41918321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休	通年		41918331 医療経営学演習

\*\* 必修科目  
\*1～5 選択必修科目

履修モデル「臨床疫学・アウトカム評価」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5～6/4	6/5～7/31	8/1～9/18	9/24～11/15	11/18～1/24	1/27～3/5			
		9W	8W	7W	8W	10W	6W			
月	1	8:30 10:15	41918320- 健康危機管理学(1)	下記特記 事項参照					1	
	2	10:25 12:10			41918322-Environmental Health 環境健康医学(1)*5	41918330-Methods for Environmental Health Research 環 境健康医学研究方法論(1)【新規】			2	
	3	13:00 14:45	41918316-法医学・医事法学(2)*3						3	
	4	14:55 16:40	41918412- 公共健康医学特論(2)		41918225-日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan (1)					4
	5	16:50 18:35				41918311-健康医療政策学(2)*4				5
	6	18:45 20:30								6
火	1	8:30 10:15	41918223- 保健医療人材育成学 (2)		41918224- 学習者評価学(2)				1	
	2	10:25 12:10							2	
	3	13:00 14:45	41918120- 医療コミュニケーション学(2)	41918115- 医学研究のデザイン(2)*1	41918127-医学研究データマ ネジメントとCDISC標準(1)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35	41918211-精神保健学 I (2)*2		41918212-精神保健学 II (2)				5	
	6	18:45 20:30							6	
水	1	8:30 10:15	41918118- 保健医療経済学(2)	41918116-臨床疫学(2)	41918222- 産業保健の理論と実 践(2)*5				1	
	2	10:25 12:10							2	
	3	13:00 14:45		41918122- 医療コミュニケーション学演習 (2)	41918128-がん疫学(1)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35							5	
	6	18:45 20:30							6	
木	1	8:30 10:15		41918313- 医療情報システム学実習(1)	41918220- 社会と健康 I (2)*3	41918124-医療技術 評価学演習(1)			1	
	2	10:25 12:10	41918126- 臨床医学概論(1)						2	
	3	13:00 14:45	41918113-医学データの 統計解析(2)**	41918114-医学統計学演 習(2)	41918117-臨床疫学・経済学演習(2)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35	41918218- 医療倫理学 I (2)*3	41918219- 医療倫理学 II (2)					5	
	6	18:45 20:30							6	
金	1	8:30 10:15			41918214- 健康社会学(2)	41918213- 健康教育学(2)*2			1	
	2	10:25 12:10	41918111-疫学研究と実践(2)*1						2	
	3	13:00 14:45	41918312- 医療情報システム学 (2)*4	41918323- 公共健康情報学(2)	41918324- 公共健康情報学演習 (2)	41918221- 社会と健康 II (2)			3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35							5	
	6	18:45 20:30							6	

業夏	8月	2週目	41918112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	1～2週目	41918321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休	通年		41918331 医療経営学演習

\*\* 必修科目  
\*1～5 選択必修科目

履修モデル「医療情報・臨床工学」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5~6/4	6/5~7/31	8/1~9/18	9/24~11/15	11/18~1/24	1/27~3/5			
		9W	8W	7W	8W	10W	6W			
月	1	8:30 10:15	41918320- 健康危機管理学(1)	下記特記 事項参照					1	
	2	10:25 12:10			41918322-Environmental Health 環境健康医学(1)*5	41918330-Methods for Environmental Health Research 環 境健康医学研究方法論(1)【新規】			2	
	3	13:00 14:45	41918316-法医学・医事法学(2)*3						3	
	4	14:55 16:40	41918412- 公共健康医学特論(2)		41918225-日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan (1)					4
	5	16:50 18:35				41918311-健康医療政策学(2)*4				5
	6	18:45 20:30								6
火	1	8:30 10:15	41918223- 保健医療人材育成学 (2)		41918224- 学習者評価学(2)				1	
	2	10:25 12:10							2	
	3	13:00 14:45	41918120- 医療コミュニケーション学(2)	41918115- 医学研究のデザイン(2)*1	41918127-医学研究データマ ネジメントとCDISC標準(1)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35	41918211-精神保健学 I (2)*2		41918212-精神保健学 II (2)				5	
	6	18:45 20:30							6	
水	1	8:30 10:15	41918118- 保健医療経済学(2)	41918116-臨床疫学(2)	41918222- 産業保健の理論と実 践(2)*5				1	
	2	10:25 12:10							2	
	3	13:00 14:45		41918122- 医療コミュニケーション学演習 (2)	41918128-がん疫学(1)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35							5	
	6	18:45 20:30							6	
木	1	8:30 10:15		41918313- 医療情報システム学実習(1)	41918220- 社会と健康 I (2)*3	41918124-医療技術 評価学演習(1)			1	
	2	10:25 12:10	41918126- 臨床医学概論(1)						2	
	3	13:00 14:45	41918113-医学データの 統計解析(2)**	41918114-医学統計学演 習(2)	41918117-臨床疫学・経済学演習(2)				3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35	41918218- 医療倫理学 I (2)*3	41918219- 医療倫理学 II (2)					5	
	6	18:45 20:30							6	
金	1	8:30 10:15			41918214- 健康社会学(2)	41918213- 健康教育学(2)*2			1	
	2	10:25 12:10	41918111-疫学研究と実践(2)*1						2	
	3	13:00 14:45	41918312- 医療情報システム学 (2)*4	41918323- 公共健康情報学(2)	41918324- 公共健康情報学演習 (2)	41918221- 社会と健康 II (2)			3	
	4	14:55 16:40							4	
	5	16:50 18:35							5	
	6	18:45 20:30							6	

業夏	8月	2週目	41918112-予防保健の実践と評価(2)
期季	9月	1~2週目	41918321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
間休	通年		41918331 医療経営学演習

\*\* 必修科目  
\*1~5 選択必修科目

## 5. シラバス

科 目 名	疫学研究と実践 [科目番号：41918111]		
タ ー ム	S1S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	佐々木 敏		
授 業 の 目 的	<p>疫学研究ならびに公衆衛生活動を実際に行いたいと考えている学生にとって必須の知識と技術、考え方を提供する講義である。地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。</p> <p>主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務（特定保健指導等）における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の利用方法、その他。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回ひとつのテーマを選んで講義を行う。</li> <li>・テーマ毎に資料が配布される。</li> <li>・4回目から12回目までは毎回講義後に宿題（小レポート）が課される。</li> <li>・6回目から13回目までは小レポートの発表が課されることがある。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 4/5 序論</li> <li>2) 4/19 疫学の歴史と社会的役割</li> <li>3) 4/26 記述疫学の目的と方法   (注意) 5/3 は休講</li> <li>4) 5/10 生態学的研究の目的と方法</li> <li>5) 5/17 疫学における「集団」の考え方</li> <li>6) 5/24 疫学における「測定方法」の考え方</li> <li>7) 5/31 横断研究の目的と方法</li> <li>8) 6/7 症例対照研究の目的と方法</li> <li>9) 6/14 コホート研究の目的と方法</li> <li>10) 6/21 介入研究の目的と方法 (1)</li> <li>11) 6/28 介入研究の目的と方法 (2)</li> <li>12) 7/5 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法</li> <li>13) 7/12 疫学研究の保健活動への活用 (注意) 7/19 は予備日</li> </ol>		
教 科 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
参 考 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	出席（配点：およそ4割）、小レポート（同：およそ4割）と講義時間中の質疑応答など（同：およそ2割）を合算して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>講義中における質疑応答ならびに小レポートを用いた発表・質疑応答への積極的な参加を重視する。</p> <p>「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。</p>		

科目名	予防保健の実践と評価 [科目番号：41918112]		
タ ャ ム	集中	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	佐々木 敏		
授 業 の 目 的	<p>公衆衛生活動・保健活動などを実際に行いたい、間接的にでもこれらに関連する職業に就きたいと考えている学生にとって必須の知識と技術、考え方を提供する講義である。地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・、実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するかという実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回ひとつのテーマを選んで講義を行う。</li> <li>・テーマ毎に資料が配布される。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1) 8/5 実生活・実社会の中で行われる地域予防保健分野の介入試験はどのように計画され、実施されるべきかについて実例を交えて学ぶ。</p> <p>2) 8/6 国民健康・栄養調査を例として、公衆衛生調査の行われ方とあり方について学ぶ。</p> <p>3) 8/7 予防保健分野における実態把握ならびに活動評価に必要な調査技術について実例を交えて学ぶ。</p> <p>4) 8/8 たばこ、食事、運動などの生活習慣を例にあげて、予防保健の理論と実践ならびにその評価方法について学ぶ。</p> <p>5) 8/9 地域医療の歴史と実践、あり方について実例を交えて学ぶ。</p> <p>原則としてすべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義と外来講師（実践者・研究者）による講義・討論を行う。</p> <p>（注意）講義の順序ならびに内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教員宛に事前に確認されたい。</p>		
教 科 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
参 考 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	講義への出席（配点：およそ4割）ならびに講義内での討論の内容（質問と発言）（配点：およそ6割）を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>講義中における質疑応答への積極的な参加を重視する。</p> <p>「疫学研究と実践」で学んだ知識・理論を実践につなげられる能力を養うことを目的とする。</p>		

科目名	医学データの統計解析 [科目番号：41918113]		
ターム	S 1	単位数	2
曜日・授業時間帯	木 4&comma; 木 3		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	松山 裕		
授業の目的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式 (テーマごとに資料が配布される)</li> <li>・毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4 月 11 日 医学研究における統計学の活用</p> <p>4 月 18 日 治療効果・曝露効果の指標と 95%信頼区間</p> <p>4 月 25 日 2 群の比較</p> <p>5 月 09 日 層別解析・ロジスティック回帰</p> <p>5 月 16 日 分散分析入門・相関と回帰</p> <p>5 月 23 日 生存時間解析</p> <p>5 月 30 日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計</p> <p>期末試験の日時は、7 月 30 日 (火) 3 限 (13 時 00 分 - 14 時 45 分)</p>		
教科書	下記、参考書欄を参照		
参考書	<p>初級者向け参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社)</li> <li>・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社)</li> </ul> <p>中級者以上向け参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳 (サイエンティスト社)</li> <li>・ Lang et al. (著) 大橋・林 監訳: わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011.</li> <li>・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社</li> </ul>		
成績評価の方法	期末試験 (80%)、毎回の小レポート (10%)、出席 (10%) で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	受講希望者は 1 回目の講義に必ず出席すること。		

科目名	医学統計学演習 [科目番号：41918114]		
ターム	S 2	単位数	2
曜日・授業時間帯	木 3&comma; 木 4		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	大庭 幸治		
授業の目的	<p>「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト <b>JMP</b> で演習を行う。その後、各グループで探索的な研究仮説を検討したのち、<b>eStat</b> (<a href="https://www.e-stat.go.jp/">https://www.e-stat.go.jp/</a>)にて公開されている公的データを利用して <b>JMP</b> を用いた解析を実施し、解析結果の発表を行い結果の提示方法を学ぶ。</p> <p>そのため、授業開始前に、各自の PC に <b>JMP</b> をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。PC を持っていない学生は、事前に担当教員まで連絡をすること。</p>		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に <b>JMP</b> の使用についての演習を行う。</li> <li>・解析手法について簡単なインストラクションの後、実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。</li> <li>・後半では、実際のデータを <b>JMP</b> を用いて解析し、班別に結果を発表する。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>6月6日 <b>JMP</b> 入門   6月13日 2群の比較</p> <p>6月20日 相関と回帰、分散分析</p> <p>6月28日 分割表の解析とロジスティック回帰</p> <p>7月4日 生存時間解析</p> <p>7月12日 多変量解析、<b>JMP</b> を用いた探索的データ解析</p> <p>7月19日 データ解析実習</p> <p>7月26日 結果発表会</p>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学データの統計解析」と同様の教科書</li> <li>・統計ソフト <b>JMP</b> 内、ヘルプドキュメンテーション (日本語版)</li> <li>・心理統計学の基礎 統合的理解のために (有斐閣アルマ)</li> <li>・続・心理統計学の基礎 統合的理解を広げ深める (有斐閣アルマ)</li> <li>・医学研究のための多変量解析 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)</li> </ul>		
参考書	教科書を参照のこと		
成績評価の方法	出席並びに発表(50%)と各講義で出されるレポート(50%)で合・否判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	授業開始前に、各自の PC に <b>JMP</b> をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。インストールの方法は、「医学データの統計解析」において配布する <b>JMP</b> のインストールについてを参照のこと。		

科 目 名	医学研究のデザイン [科目番号：41918115]		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3&comma; 火 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	松山 裕		
授 業 の 目 的	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。 主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。		
授 業 の 方 法	・テーマ毎に講義・演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6/11 研究デザインの分類と特徴：観察研究のデザイン総論 (松山) 6/18 研究デザインの分類と特徴：臨床試験のデザイン総論 (松山) 6/25 臨床試験のデザインとプロトコル作成：CONSORT による論文チェック (林) 7/02 疫学研究のデザインとプロトコル作成：STROBE による論文チェック (林) 7/09 データマネージメントと品質管理：研究組織と運営 (辻井) 7/16 医薬品の承認審査・先進医療の評価の概要と実際 (柴田) 7/23 傾向スコアを用いた研究デザイン：傾向スコアの正しい使い方 (松山)		
教 科 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009。 ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告-医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011。		
参 考 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009。 ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告-医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011。		
成績評価の方法	出席 (50%)、レポート・演習報告等 (50%) で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	履修希望者は1回目の講義に必ず出席すること。		



科目名	臨床疫学 [科目番号：41918116]		
ターム	S 2	単位数	2
曜日・授業時間帯	水 2&comma; 水 1		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	康永 秀生		
授業の目的	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。		
授業の方法	事前に渡された関連文献を熟読してくること。それを前提として講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) (6/5、1 限) 臨床疫学の基礎知識 1 2) (6/5、2 限) 臨床疫学の基礎知識 2 3) (6/19、1 限) EBM と診療ガイドライン 4) (6/19、2 限) 臨床診断 5) (6/26、1 限) 臨床予測モデル 6) (6/26、2 限) コホート研究／症例対照研究／自己対照研究デザイン(岩上) 7) (7/3、1 限) ランダム化比較試験(RCT)とリアルワールドデータ(RWD)研究 8) (7/3、2 限) ヘルスサービスリサーチ 9) (7/10、1 限) 回帰分析の注意点 10) (7/10、2 限) 傾向スコア分析(propensity score analysis) 11) (7/17、1 限) 操作変数法(instrumental variable method) 12) (7/17、2 限) 差の差の検定、回帰分断デザイン (笹渕) 13) 14) (7/24、1・2 限) レポート発表会   ※講義の順番は変更することがある		
教科書	なし		
参考書	Fletcher RW&comma; Fletcher SW. Clinical Epidemiology; The Essentials. Fifth Edition. Lippincott&comma;Williams&Wilkins. 2012 康永秀生.できる！臨床研究 最短攻略 50 の鉄則.金原出版 2017		
成績評価の方法	出席点 50 点、レポート 50 点		
他の授業との関連・履修上の注意	「疫学研究と実践」「医学データの統計解析」「医学研究のデザイン」などに関連する。「臨床疫学・経済学演習」と強く関連する。 非医師の学生で本講義の履修を希望する者は、S1 ターム「臨床医学概論」の履修を強く推奨する。		

科目名	臨床疫学・経済学演習 [科目番号：41918117]		
タ ー ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 3&comma; 木 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	<p>1. 医学英語論文の書き方を学ぶ          在学中から医学英語論文を書こうと真剣に考えている学生を対象とする。</p> <p>2. 研究費申請書の書き方を学ぶ          卒業後に研究費を申請することを真剣に検討している学生を対象とする。          各自の臨床または公衆衛生の経験をもとに研究テーマを確立し、研究の背景・目的・方法・期待される結果を記述し、研究経費の見積もり等を作成する、実践的なスキルを身につける。(論文執筆や研究費申請の経験の有無は問わない)</p>		
授 業 の 方 法	原則として、3 限は医学英語論文の書き方演習、4 限は研究費申請書(文部科学研究費・若手研究または基盤 C のフォーマットに従う)作成の個別指導。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1)9/26 3 限:医学論文を書くための準備(1) 4 限:研究費申請書の書き方(1)</p> <p>2)10/3 3 限:医学論文を書くための準備(2) 4 限:研究費申請書の書き方(2)</p> <p>3)10/10 3 限:Title の書き方 4 限:個別指導</p> <p>4)10/17 3 限:Abstract の書き方 4 限:個別指導          10/24 (公衆衛生学会のため休み)</p> <p>5)10/31 3 限:Introduction の書き方 4 限:研究計画の口頭説明</p> <p>6)11/7 3 限:Methods&amp;comma; Results の書き方 4 限:個別指導</p> <p>7)11/14 3 限:Discussion の書き方(1) 4 限:個別指導</p> <p>8)11/21 3 限:Discussion の書き方(2) 4 限:個別指導</p> <p>9)11/28 3 限:Discussion の書き方(3) 4 限:個別指導</p> <p>10)12/5 3 限:論文の Submission 4 限:個別指導</p> <p>11)12/12 3 限:論文の Revision 4 限:個別指導</p> <p>12)12/19 研究計画の中間発表</p> <p>13)1/9 3 限:Reviewer comment の書き方(1) 4 限:個別指導</p> <p>14)1/16 3 限:Reviewer comment の書き方(2) 4 限:研究費申請書の審査</p> <p>※講義・演習の順番は変更となることがある。</p>		
教 科 書	なし		
参 考 書	康永秀生. 必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略 50 の鉄則. 金原出版 2016		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>※履修・聴講ともに、「臨床疫学」講義の受講が必須。</p> <p>履修(3・4 限ともに履修し単位取得)希望者は、10 名程度まで受け入れ可。</p> <p>「臨床疫学」講義の受講者から、本演習の履修希望者を 7 月中に募集する。</p> <p>履修希望者が 10 名を超える場合は、「臨床疫学」講義の成績上位者を優先する。</p> <p>3 限のみの聴講は可能。(この場合も「臨床疫学」講義の受講は必須。単位取得はできないので注意)。4 限の聴講のみは不可。</p>		

科目名	保健医療経済学			[科目番号：41918118]
ターム	S 1	単位数	2	
曜日・授業時間帯	水 2&comma; 水 1			
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担当教員	康永 秀生			
授業の目的	1. 医療経済学の基礎知識を身に着ける。 2. 医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。			
授業の方法	講義、グループ・ディスカッション			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 医療経済学の基礎 1 (4 月 10 日 1 限) 2) 医療経済学の基礎 2 (4 月 10 日 2 限) 3) 保険の理論 (4 月 17 日 1 限) 4) 医療サービスの生産効率性 (4 月 17 日 2 限) 5) 医療サービス市場における競争・規制 (4 月 24 日 1 限) 6) 供給者誘発需要仮説 (4 月 24 日 2 限) 7) 医療経済学と医療政策 1 (5 月 8 日 1 限) 8) 医療制度の国際比較 (5 月 8 日 2 限) 9) 医療経済学と医療政策 2 (5 月 15 日 1 限) 10) 行動経済学 (講師：後藤励) (5 月 15 日 2 限) 11) 医療経済学と医療政策 3 (5 月 22 日 1 限) 12) 医療費増加の要因 (5 月 22 日 2 限) 13) 医療経済学と医療政策 4 (5 月 29 日 1 限) 14) 医療経済学と医療政策 5 (5 月 29 日 2 限) ※各講義の順番は変更することがある			
教科書	なし			
参考書	橋本英樹/泉田信行編. 医療経済学講義. 東京大学出版会			
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%			
他の授業との関連・履修上の注意	「医療技術評価学演習」、「健康医療政策学」などに関連する。			

科 目 名	医療コミュニケーション学 [科目番号：41918120]		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3&comma; 火 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	木内 貴弘		
授 業 の 目 的	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1)コミュニケーションの基本的な理論、(2)コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回1テーマの講義を行う。</li> <li>・ テーマに基づいた追加資料の配布やグループワークを行うことがある。</li> </ul>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>4月9日3限 医療コミュニケーション学概論 木内貴弘  4月9日4限 ヘルスコミュニケーションの研究：コミュニケーションの分析方法と実証研究 奥原剛  4月16日3限 患者・市民の教育：賢い患者・市民を育てる取り組み 山口育子 (COML)  4月16日4限 グループ・組織のコミュニケーション：多職種連携とリーダーシップ 石川ひろの (帝京大学)  4月23日3限 政策形成とアドボカシーのコミュニケーション：アドボカシーの概念と人材育成 神馬征峰 (国際地域保健学)  4月23日4限 ヘルスコミュニケーションの方略①：集団の行動変容を促すコミュニケーション 石川善樹 (キャンサースキャン)  5月7日3限 ヘルスコミュニケーションの方略②：エンターテイメント・エデュケーション 加藤美生 (帝京大学)   5月7日4限 ヘルスコミュニケーションの方略③：医療のビジュアルコミュニケーション 原木万紀子 (立命館大学)  5月14日3限 メディアコミュニケーション①：テレビ 市川衛 (NHK)   5月14日4限 メディアコミュニケーション②：新聞 本田麻由美(読売新聞)  5月21日3限 ヘルスコミュニケーションの方略④：外国人患者とのコミュニケーション 大野直子 (順天堂大学)  5月21日4限 ヘルスコミュニケーションの方略⑤：個人の行動変容を促すコミュニケーション 石川雄一(日本ヘルスサイエンスセンター)  5月28日3限 メディアコミュニケーション③：インターネット 中山和弘 (聖路加国際大学)  5月28日4限 まとめ：グループ討論と総合討論 木内貴弘、奥原剛、上野治香</p>		
教 科 書	特に指定しない。		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石川ひろの、奥原剛、他著. 人間関係論 (系統看護学講座 基礎分野). 医学書院. 2018</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 藤崎和彦、橋本英樹 著. 医療コミュニケーション研究会 編. 医療コミュニケーション—実証研究への多面的アプローチ. 篠原出版新社. 2010</li> <li>・ Debra L. Roter &amp; Judith A. Hall 著. 石川ひろの、武田裕子 訳. 患者と医師のコミュニケーション—より良い関係作りの科学的根拠. 篠原出版新社. 2007</li> <li>・ Athena du Pre. Communicating About Health: Current Issues and Perspectives. 5th ed. Oxford University Press. 2016   ・ Peter G. Northouse &amp; Laurel L. Northouse 著. 萩原明人 訳. ヘルス・コミュニケーション 改訂版. 九州大学出版会. 2010</li> </ul>
成績評価の方法	講義への出席 (30%)、レポート (70%) による。
他の授業との関連・履修上の注意	医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学、等と関連する。

科 目 名	医療コミュニケーション学演習 [科目番号：41918122]		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 4&comma; 水 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	木内 貴弘		
授 業 の 目 的	効果的な医療コミュニケーション (ヘルスコミュニケーション) を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的にに取り上げ、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場 (医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等) でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。</li> <li>・ 演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>6月5日(水) 3-4限 ヘルスライティング (1) 患者・家族を支援する説明文書を作る 高山智子 (がんコミュニケーション学)</p> <p>6月12日(水) 3-4限 自分を知る・相手を知る : MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 演習 (1) 園田由紀(日本 MBTI 協会)</p> <p>6月19日(水) 3-4限 自分を知る・相手を知る : MBTI 演習 (2) 園田由紀(日本 MBTI 協会)</p> <p>6月26日(水) 3-4限 自分を知る・相手を知る : MBTI 演習 (3) 園田由紀(日本 MBTI 協会)</p> <p>7月3日(水) 3-4限 行動変容を支援するスキル : コーチング演習 田口智博 (藤田医科大学)</p> <p>7月10日(水) 3-4限 メディア報道のあり方を考える : メディアドクター演習 渡邊清高 (帝京大学)</p> <p>7月17日(水) 3-4限 ヘルスライティング (2) 市民の行動変容を促す保健医療文書を作る 奥原剛</p> <p>7月24日(水) 3-4限 ヘルスライティング (3) 発表会・総合討論 木内貴弘、奥原剛、高山智子、上野治香</p>		
教 科 書	特に指定しない。		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石川ひろの、奥原剛、他著. 人間関係論 (系統看護学講座 基礎分野). 医学書院. 2018</li> <li>・ 田近秀敏 : [実践]ビジネス・コーチング—プロフェッショナル・コーチの道具箱、PHP 研究所、2003</li> <li>・ 園田由紀 (訳) : MBTI への招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002</li> </ul>		
成績評価の方法	演習への参加 (50%)、演習内でのプレゼンテーション (20%)、作成した資料・レポート (30%) によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。特に MBTI 演習は3回とも出席できることを前提とする。		
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「医療コミュニケーション学」講義を受講していることが望ましい。</li> <li>・ MBTI 演習については原則として聴講を認めない。</li> </ul>		

・6月5日、7月17日、7月24日は各自ノートPCを持参すること。

科目名	医療技術評価学演習			[科目番号：41918124]
タ　　ー　　ム	A 2	単　　位　　数	1	
曜日・授業時間帯	木 2			
場　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担　当　教　員	康永 秀生			
授　業　の　目　的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療技術評価(Health Technology Assessment&amp;comma; HTA)の基本を身に着ける。</li> <li>・費用効果分析のための臨床アウトカム及びコスト情報の収集、QOL 評価、決定樹・マルコフモデルの作成、費用対効果の算出、感度分析などの一連の医療経済評価手法を学ぶ。</li> </ul>			
授　業　の　方　法	系統講義と演習。一部、電卓やパソコンを用いた演習を行う。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (11 月 21 日) 医療技術評価学の基礎</li> <li>2. (11 月 28 日) QOL 評価 (五十嵐)</li> <li>3. (12 月 5 日) 費用効果分析・その 1</li> <li>4. (12 月 12 日) 費用効果分析・その 2</li> <li>5. (12 月 19 日) 費用効果分析・その 3</li> <li>6. (1 月 9 日) 医薬品及び医療機器の経済評価 (田倉)</li> <li>7. (1 月 16 日) 医療技術評価と医療政策 (池田)</li> </ol> <p>※講義の順番は変更することがある</p>			
教　科　書	なし			
参　考　書	Drummond MF&comma; et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes Fourth Edition. Oxford Medical Publications 2015			
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%			
他の授業との関連・履修上の注意	「保健医療経済学」、「臨床疫学」の各講義と関連する。			



科目名	医療経営学演習 [科目番号：41918125]		
タ ー ム	通年	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	土 2&comma; 土 4&comma; 土 1&comma; 土 3&comma; 土 5		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永 秀生、橋本 英樹		
授 業 の 目 的	<p>病院経営の基本的言語・態度・基本を学ぶ。なお本演習は、平成 29 年度より東京大学医学部附属病院において開講される社会人講座「経営のできる大学病院幹部養成プログラム」(全 74 コマ) の一部の講義・演習を特別に SPH 履修者に対してオープンにするものである(全コースの受講を希望する場合は、プログラム公募(2 月ころ)に合わせて応募のこと、全コース修了者には履修証明書が出される。有料。)</p>		
授 業 の 方 法	<p>講義、ディスカッション、演習を組み合わせる。当日までに予習を必須とする。特にケースメソッドを用いる演習では、事前にケースシナリオを読み込み、ディスカッションに必要な準備をしてくること。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>5 月 18 日 13 : 00-14 : 45 インTRODクシヨN 橋本英樹  5 月 18 日 15 : 00-16 : 45 ケーススタディ演習 渋谷明隆  5 月 25 日 10 : 00-11 : 45 医療経営の原理 西田在賢  5 月 25 日 13 : 00-14 : 45 会計学概論 井出博生  5 月 25 日 15 : 00-16 : 45 財務諸表 演習 井出博生  6 月 1 日 10 : 00-11 : 45 財務諸表 演習 井出博生  6 月 1 日 13 : 00-14 : 45 財務諸表 講義 井出博生  6 月 15 日 10 : 00-11 : 45 組織論総論 講義 渡邊光康  6 月 15 日 13 : 00-14 : 45 資金調達論 講義 松原由美  6 月 15 日 15 : 00-16 : 45 意思決定会計 1 演習 松原由美  6 月 22 日 10 : 00-11 : 45 マーケティング総論 講義 渡邊光康  6 月 22 日 13 : 00-14 : 45 意思決定会計 2 演習 松原由美  7 月 6 日 10 : 00-11 : 45 リーダーシップ論総論 講義 渡邊光康  7 月 6 日 13 : 00-14 : 45 Human resource management 概論 講義 小田村裕子  9 月 7 日 10 : 00-11 : 45 戦略論総論 講義 橋本英樹  9 月 7 日 13 : 00-14 : 45 メディアリスク管理 1 演習 磯野敏和  9 月 7 日 15 : 00-16 : 45 メディアリスク管理 2 演習 磯野敏和  9 月 21 日 13 : 00-14 : 45 戦略論各論 講義 橋本英樹  10 月 12 日 13 : 00-14 : 45 リスクマネジメント演習 1 渋谷明隆  10 月 12 日 15 : 00-16 : 45 リスクマネジメント演習 2 渋谷明隆  10 月 19 日 13 : 00-14 : 45 戦略論演習演習 1 橋本英樹・西田在賢  10 月 19 日 15 : 00-16 : 45 戦略論演習演習 2 橋本英樹・西田在賢</p>		
教 科 書	特になし。		
参 考 書	資料を事前配布する。		
成績評価の方法	出席ならびにディスカッション参加 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>参加者は上限 4 名とし、医師・看護師・検査技師・病院事務などでの病院勤務有経験者(5 年以上)に限定する。なお希望が多い場合には事前に選考を行う。原則、すべての講義・演習への参加を必須とする。いずれも土曜日開講、場所は医学部南研究棟 2 階セミナー室</p>		

科 目 名	臨床医学概論	[科目番号：41918126]	
タ ー ム	S 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	<p>非医師の学生向け。</p> <p>臨床医学に関する基礎知識を身に着ける。</p> <p>医学用語を習得し、医学論文を読むための基礎力を養う。</p>		
授 業 の 方 法	<p>系統講義を通じて、解剖・生理、診断・治療および疾患の疫学について要点を解説する。</p> <p>また、医学用語（日本語・英語）を解説し、基礎的な医学論文の読解を行う。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳神経 (4/11)</li> <li>2. 循環器・呼吸器 (4/18)</li> <li>3. 消化器 (4/25)</li> <li>4. 腎・泌尿器、生殖器 (5/9)</li> <li>5. 感覚器、運動器(5/16)</li> <li>6. 感染症、中毒、血液(5/23)</li> <li>7. 内分泌・代謝、膠原病・アレルギー(5/30)</li> </ol> <p>※講義の順番は変更することあり！</p>		
教 科 書	<p>なし</p> <p>毎回、テーマ毎に資料が配布される</p>		
参 考 書	なし		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>「疫学研究と実践」、「医学研究のデザイン」と関連する。</p> <p>「臨床疫学」と強く関連する。</p> <p>非医師の学生で「臨床疫学」講義の履修を希望する者は、本講義の履修を強く推奨する。</p>		

科目名	医学研究データマネジメントと CDISC 標準 [科目番号：41918127]		
ターム	A 1	単位数	1
曜日・授業時間帯	火 3		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	木内 貴弘		
授業の目的	<p>臨床研究の電子データ交換の国際標準として、日本および米国の薬事申請で必須とされている規格である CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium)標準と、その背景となる臨床研究データマネジメント論について講義を行う。CDISC 標準は、臨床研究データ、およびそれに付随するメタデータの規格であり、臨床試験情報の電子的な収集、交換、申請、アーカイブ化等、研究実施のあらゆる場面で活用が可能である。</p> <p>広く普及した医療情報交換規格およびその成立背景について知ることを通じて、データの相互運用性(Interoperability)の重要性を学ぶとともに、医学・疫学・IT の学際的分野である臨床研究データマネジメントの実際について触れることを目的とする。</p>		
授業の方法	初回に全体の総論、2 回目以降に各論について、スライド、配布資料を用いて、講義及び質疑応答を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9 月 24 日(火)13:00-14:45 I. 臨床研究データマネジメント概論：臨床研究データマネジメントとは 宮路天平 (臨床試験データ管理学)</p> <p>10 月 1 日(火)13:00-14:45 II. CDISC 標準概論：CDISC 標準とは 木内貴弘/千葉吉輝(株式会社 ChibaPlanningOffice)</p> <p>10 月 8 日(火)13:00-14:45 III. 症例報告書の標準化 – CDASH / データ形式の標準化 – SDTM Clinical Data Acquisition Standards Harmonization / Study Data Tabulation Model 千葉吉輝(株式会社 ChibaPlanningOffice)</p> <p>10 月 15 日(火)13:00-14:45 IV. データとメタデータ – Define.xml&amp;comma; CDISC Define.xml 海老邦仁(富士通株式会社)</p> <p>10 月 29 日(火)13:00-14:45 V. 解析データセットの標準化 – ADaM Analysis Data Model 山口拓洋 (臨床試験データ管理学)</p> <p>11 月 5 日(火)13:00-14:45 VI. データ通信の仕様 ODM Operational Data Model 千葉吉輝(株式会社 ChibaPlanningOffice)</p> <p>11 月 12 日(火)13:00-14:45 VII. CDSIC 標準による電子申請：日本における新薬承認申請の現状と展望 安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構)</p>		
教科書	教材として、スライドのハンドアウトを各回に配布する。また CDISC ホームページ ( <a href="http://www.cdisc.org/">http://www.cdisc.org/</a> ) を必要に応じ、参照すること。		
参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法	出席(50%)及びレポート(50%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医学データの統計解析、医学研究のデザイン、公共健康情報学、医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係を有し、共に受講することが望ましい。		

科 目 名	がん疫学 [科目番号：41918128]		
タ ー ム	A 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	水 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	井上 真奈美、川上 憲人		
授 業 の 目 的	<p>「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、近年注目されているゲノム疫学手法、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やその普及実装のための研究、がん検診の考え方、について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学ぶ。最終回には、課題として各自が選定したがん疫学関連トピックについてまとめたものを短時間で発表する。</p>		
授 業 の 方 法	講義、課題発表		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義：がん疫学の概要（地理的分布、推移、がんの要因）(9/25、3 限)</li> <li>2) 講義：がん疫学研究手法（統計・記述疫学研究、分析疫学研究）(10/2、3 限)</li> <li>3) 講義：がん要因の評価と予防法（研究から評価へ、評価研究手法）(10/9、3 限)</li> <li>4) 講義：がん疫学研究におけるゲノム疫学 (10/16、3 限)</li> <li>5) 講義：がん予防の普及と実装研究 (10/30、3 限)</li> <li>6) 講義：がん検診、他、最近のトピック (11/6、3 限)</li> <li>7) 課題発表 (11/13、3 限)</li> </ol>		
教 科 書	指定なし。		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Adami HO et al (eds): Textbook of Cancer Epidemiology&amp;comma; 3rd Edition. Oxford University Press.</li> <li>・ 木原雅子他訳&amp;comma; 健康行動学:その理論、研究、実践の最新動向. メディカル・サイエンス・インターナショナル (第 16 章)</li> <li>・ Chambers DA&amp;comma; et al. eds.&amp;comma; Advancing the Science of Implementation across the Cancer Continuum&amp;comma; Oxford University Press.</li> <li>・ Neil M Davies&amp;comma; Michael V Holmes&amp;comma; George Davey Smith: Reading Mendelian randomisation studies: a guide&amp;comma; glossary&amp;comma; and checklist for clinicians. BMJ. 2018; 362: k601. doi: 10.1136/bmj.k601</li> </ul>		
成績評価の方法	講義出席 (60%)、課題発表と発表資料 (要提出) (40%)		
他の授業との関連・履修上の注意	疫学の基礎が理解できていること。 10/23 は日本公衆衛生学会のため講義はなし。		

科目名	精神保健学 I [科目番号：41918211]		
タ ー ム	S1S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	川上 憲人、西 大輔		
授 業 の 目 的	精神保健の疫学や方法論を踏まえた上で、精神保健に関する課題の対策を科学的根拠に基づいて立案するための知識・技術を習得することを目的とする。具体的には、精神保健の疫学や方法論を体系的に理解し説明できること、精神保健の第一次・第二次・第三次予防の科学的根拠の現状について説明できること、グループのメンバーとの協働およびリーダーシップのあり方を学びつつ課題に即した精神保健対策を立案できることを到達目標とする。		
授 業 の 方 法	各回1つのテーマについて担当教員（または外部講師）による講義と討議、質疑を行う。学生は各回の課題について事前に調べ持参する。課題発表1および2の回では、学生がグループでテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4/9 オリエンテーション・総論 (川上憲人) 4/16 精神疾患の疫学 (西大輔) 4/23 精神健康とその評価 (西大輔) 4/30 (祝日) 5/7 精神保健サービスの利用 (西大輔) 5/14 ト라우マと災害精神保健 (西大輔、宮本有紀) 5/21 認知行動療法に基づいたアプローチ (今村幸太郎) 5/28 生活習慣に基づいたアプローチ (西大輔、渡辺和広) 6/4 課題発表1 科学的根拠に基づく精神保健対策 (学生による発表) 6/11 自殺予防対策はどう進めるか (外部講師) 6/18 認知症在宅ケアの質を改善する (外部講師) 6/25 薬物使用は犯罪か病気か (外部講師) 7/2 発表準備 (学生による自習) 7/9 課題発表2 科学的根拠に基づく精神保健対策を立案する		
教 科 書	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席 (30%)、毎回の事前学習 (10%)、課題発表2 (30%)、個人レポート(30%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	※最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。		

科 目 名	精神保健学Ⅱ	[科目番号：41918212]	
タ ー ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	川上 憲人		
授 業 の 目 的	<p>職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術（制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策、等）を体系的に理解し説明できる、および産業精神保健の現場で具体的な対策を提案・推進ができるし、パブリックヘルス・マインドを持って産業精神保健を実践できる能力を養成する。</p>		
授 業 の 方 法	各回 1 テーマの講義あるいは事例研究（ケーススタディ）  担当教員（または非常勤講師）による講義と全員での討論。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>10/ 1 コース概要, 産業精神保健総論  10/ 8 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策  10/15 職場のいじめとメンタルヘルス  10/29 労働者の睡眠とメンタルヘルス  11/ 5 職場のメンタルヘルスと両立支援  11/12 労働者の復職支援プログラム  11/19 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス  11/26 職場のメンタルヘルスの一次予防①  12/ 3 職場のメンタルヘルスの一次予防②  12/10 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと  12/17 経営と産業保健は協調できるか？  12/24 健康経営と職場のメンタルヘルス  1/ 7 これからの職場のメンタルヘルス</p>		
教 科 書	毎回、講義資料を配付する。		
参 考 書	川上憲人. 基礎からはじめる職場のメンタルヘルス—事例で学ぶ考え方と実践ポイント. 大修館&comma; 2016		
成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%) により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。平成 29 年度学生授業評価アンケートをもとに、授業の目的がより明確になるようにシラバス上に記載した。		

科 目 名	健康教育学	[科目番号：41918213]	
タ ー ム	A 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 1&comma; 金 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	<p>生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。 This lecture course will provide a quick review of behavioral theories related to health intervention&amp;comma; by applying them to case scenarios. Then&amp;comma; invited lecturers will provide &amp;quot;real world practice&amp;quot; examples for health promotion&amp;comma; with emphasis on marketing&amp;comma; empowerment approach&amp;comma; media message design&amp;comma; and community building. Each frame of theories will be critically discussed for their strength and weakness to help integration of existing frames to facilitate effective health promotion in the community/workplaces.</p>		
授 業 の 方 法	Lecture&comma; in-class discussion with case scenario 講義、グループディスカッション、ケースメソッドなどを組み合わせる。		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	11/22 1) 1 限 Micro-meso level theories of behavioral science (橋本) 11/22 2) 2 限 Micro-meso level theories of behavioral science applied (橋本) 11/29 3) 1 限 Macro level theories of community organization (橋本) 11/29 4) 2 限 Macro level theories of community organization applied (橋本) 12/6 5) 1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 12/6 6) 2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/13 7) 1 限 Public message design for health promotion I (林) 12/13 8) 2 限 Public message design for health promotion II (林) 12/20 9) 1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 12/20 10) 2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 1/17 11) 1 限 Social marketing through social network intervention (鎌田) 1/17 12) 2 限 Public intervention for community health (馬場) 1/24 13) 1 限 Decision making and behavior (橋本) 1/24 14) 2 限 Wrap-up discussion (橋本)		
教 科 書	handouts and reading materials will be distributed beforehand&comma; a week ahead.&comma; Students are strongly encouraged to read materials beforehand to effectively join in-class discussion.		
参 考 書	Glanz K&comma; et al. Health Behavior and Health Education; Theory&comma; Research and Practice. 4th eds. John Wiley and Sons&comma; 2008 畑 栄一&comma; 土井 由利子. 行動科学—健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第 2 版 :他、適宜配布		
成 績 評 価 の 方 法	Class attendance and in-class discussion/questions are counted as in-class contribution that shares 40% of score evaluation&comma; the rest of 60% will be evaluated based on one term paper (short).		

	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)
他の授業との関連・履修上の注意	積極的発言・参加を高く評価する.講義中以外（休み時間）の質問は原則受け付けない



科 目 名	健康社会学	[科目番号：41918214]
タ ー ム	A 1	単 位 数 2
曜日・授業時間帯	金 2&comma; 金 1	
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室	
担 当 教 員	橋本 英樹、高木 大資	
授 業 の 目 的	<p>社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。</p> <p>Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame. Specific focus will be put on themes such as social stratification and health&amp;comma; health impacts of built environment and social environment&amp;comma; medicalization and clinical gaze&amp;comma; and sociology of body/embodiment.</p>	
授 業 の 方 法	<p>lecture and in-class discussion</p> <p>Strongly encourage to read materials beforehand to prepare for in-class discussion</p>	
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9/27 1) 1 限 Perspective of sociology and health sociology (橋本)</p> <p>9/27 2) 2 限 Social stratification and socioeconomic status (橋本)</p> <p>10/4 3) 1 限 Social stratification and health (橋本)</p> <p>10/4 4) 2 限 Social relationship and health (杉澤)</p> <p>10/11 5) 1 限 Sociology of community applied to health (高木)</p> <p>10/11 6) 2 限 Social network analysis (高木)</p> <p>10/18 7) 1 限 Lay perspective of health and disease/ Illness behavior (橋本)</p> <p>10/18 8) 2 限 Complementary/alternative healthcare (中山)</p> <p>10/25 公衆衛生学会のため休講</p> <p>11/1 9) 1 限 Chronic illness and stigma (加藤)</p> <p>11/1 10) 2 限 Sociology of chronic illness (加藤・橋本)</p> <p>11/8 11) 1 限 World of medicine; archeological perspective (橋本)</p> <p>11/8 12) 2 限 World of chronically ill; phenomenological view (橋本)</p> <p>11/15 13) 1 限 Body sociology and embodiment (橋本)</p> <p>11/15 14) 2 限 open discussion</p>	
教 科 書	handouts and reading materials will be distributed beforehand&comma; a week ahead.	
参 考 書	<p>Lupton D. Medicine as culture; illness&amp;comma; disease&amp;comma; and the body. 2nd eds. SAGE&amp;comma; 2003</p> <p>他、適宜配布</p>	
成績評価の方法	class attendance and in-class discussion/questions count 40% of score as in-class contribution. Report share 60% of score evaluation. 出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)	
他の授業との関連・履修上の注意	<p>In-class discussion/questions will be counted as contribution for score.</p> <p>For further information&amp;comma; contact at dtakagi-utokyo@umin.ac.jp (Takagi) or hidehashimoto-circ@umin.ac.jp (Hashimoto)</p>	

科目名	医療倫理学 I [科目番号：41918218]		
ターム	S 1	単位数	2
曜日・授業時間帯	木 6&comma; 木 5		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	赤林 朗、瀧本 禎之、中澤 栄輔		
授業の目的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を学ぶ。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論 (ディベート) を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授業の方法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	(1) 生命・医療倫理学とは / 倫理学の基礎 1 (2) 倫理学の基礎 2 / 医療倫理の原則と重要概念 (3) 臨床症例の倫理的検討法 (4) ケアの倫理 / 生殖補助医療 (5) IC の法理 / 終末期医療 (6) 守秘義務 / 研究倫理 (7) 模擬倫理委員会		
教科書	印刷物を配布する		
参考書	・ 赤林朗 (編著) 『入門・医療倫理 I』 [改訂版] 勁草書房 ・ Jonsen&comma; A.R. et al. 著 (赤林、蔵田、児玉監訳) 『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』 新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Hope&comma; T. 著 (児玉聡・赤林朗訳) 『一冊で分かる医療倫理』 岩波書店		
成績評価の方法	平常点 (30%)、及び最終レポート (70%) により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	「医療倫理学特論 II」受講の基礎となる内容である。		

科目名	医療倫理学Ⅱ	[科目番号：41918219]	
タ　　ム	S 2	単　　位　　数	2
曜日・授業時間帯	木 5&comma; 木 6		
場　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担　当　教　員	瀧本 禎之、中澤 栄輔		
授　業　の　目　的	公衆衛生倫理と臨床倫理コンサルテーションの 2 つの領域に関して実践的な知識を涵養するために、全体講義と少人数討論 (ディベート) を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授　業　の　方　法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	(1) 公衆衛生倫理入門 (2) 公衆衛生・政治哲学 (3) 健康格差と正義Ⅰ/医療における意思決定 (4) 健康格差と正義Ⅱ/倫理コンサルテーションⅠ (5) 資源配分/倫理コンサルテーションⅡ (6) 新型インフルエンザ/倫理コンサルテーションⅢ (7) 研究者の倫理と不正/倫理コンサルテーションⅣ		
教　科　書	印刷物を配布する。		
参　考　書	・ 赤林朗(編著)『入門・医療倫理Ⅰ』勁草書房 ・ Jonsen&comma; A.R. et al.著 (赤林、蔵田、児玉監訳)『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著『ケースブック 医療倫理』医学書院 ・ Hope&comma; T.著 (児玉聡・赤林朗訳)『一冊で分かる医療倫理』岩波書店		
成績評価の方法	平常点 (30%)、及び最終レポート点数 (70%) により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医療倫理学Ⅰの内容を前提とする。		

科 目 名	社会と健康 I [科目番号：41918220]		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 1&comma; 木 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	近藤 尚己、川上 憲人、橋本 英樹		
授 業 の 目 的	<p>健康の社会的決定要因 (Social Determinants of Health: SDH) へアプローチする公衆衛生活動が世界的な潮流となりつつある。本コースでは SDH にアプローチする公衆衛生対策・健康格差対策を実践していくための基礎となる理論とエビデンスについて学ぶ。社会疫学の基本的な考え方からスタートし、様々な分野の最前線で研究を行う講師からオムニバス形式で講義を行う。SDH に関連する実証研究を進めるために必要な因果推論技法の基礎も扱う。社会環境は多様で複雑なため、多様な学生の参加や、各々の視点を生かした議論が不可欠であるため、積極的に参加してほしい。</p>		
授 業 の 方 法	<p>事前配布資料・講義とクラスディスカッション・レポート課題からなる。各講義に関連する指定テキストの該当章、および事前配付資料はその概要を把握していることを前提として講義を進める (初日の 2 回分の講義以外)。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>スケジュール</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会疫学概論 (近藤) 9/26 1 限</li> <li>2) 社会と健康をつなぐ疾病論の歴史的考察 (橋本) 9/26 2 限</li> <li>3) 社会経済状況 (近藤) 10/3 1 限 【レポート課題あり】</li> <li>4) マクロな社会環境：景気動向・所得格差 (近藤) 10/3 2 限 【レポート課題あり】</li> <li>5) 社会関係 (近藤) 10/10 1 限</li> <li>6) ソーシャル・キャピタル (近藤) 10/10 2 限 【レポート課題あり】</li> <li>7) 職業性ストレス・差別 (川上) 10/17 1 限</li> <li>8) 胎児期からの社会環境：ライフコース疫学 (藤原) 10/17 2 限</li> <li>9) 健康の平等と倫理 (TBA) 10/31 1 限</li> <li>10) ジェンダーの健康影響 (本庄) 10/31 2 限</li> <li>11) 社会疫学の因果推論技法 (近藤) 11/14 1 限 【レポート課題あり】</li> <li>12) 健康格差の制御方法 (近藤) 11/14 2 限</li> </ol> <p>各回の内容は後述。講師の都合により日時変更の可能性あり。</p> <p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会疫学概論 (近藤)</li> </ol> <p>テキスト：序章、13 章</p> <p>概要：コースの全体像を紹介する。また、社会疫学の主な概念について解説する。健康を決定する社会的要因の構造や様々な政策との関連について概観する。</p> <p>推薦図書資料：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イチロー カワチ「命の格差は止められるか」小学館 (新書)：ハーバード大学公衆衛生大学院での人気の社会疫学についての授業を一般向けにサマリーした新書。社会疫学の概要を把握するのに便利。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>2) 社会と健康をつなぐ疾病論の歴史的考察 (橋本)</li> </ol> <p>テキスト：序章、第 1 章</p> <p>概要：疾病が発生するメカニズムは、歴史的に見た場合、医学的知識によってのみ規定さ</p>		

れるものではなく、社会との接点のなかで、疾病の意味づけとともに進化してきた経緯がある。こうした疾病論の歴史的変遷を振り返ることで、生活習慣やストレスなどの「概念」がどのような社会的文脈で問題と認識されるにいたったのか、秘められた問題意識 (hidden agenda) に注目することで、健康の社会格差を論じる際の「前提」について理解を深める。||3) 社会経済状況 (学歴・所得・社会的排除) (近藤)

テキスト：第6章 (2、3、8章にもざっと目を通しておくとよい)

概要：社会経済状況は最も良く知られた健康の社会的決定要因の一つである。一言で社会経済状況といっても、何をもって測定するかによって解釈は大きく異なる。

4) マクロな社会環境：景気動向・所得格差 (近藤)

テキスト6、7、9章

概要：景気動向や所得格差、そして都市環境など、社会システムと直結するマクロな事象や環境は、「健康な社会のあり方」を考える上で重要なテーマである。マクロな社会環境により私たちの健康がどのような影響を受けるだろうか。またそのメカニズムは何だろうか。

5) 社会関係 (近藤)

テキスト10、11章

概要：霊長類の多くは社会的な動物であり、孤立した個体の生存確率は下がる。ヒトも例外ではない。人間同士の社会的なつながり (=社会的ネットワーク) や、ネットワークを介して授受される助け合い (社会サポート) が人の健康に影響する程度やメカニズムに関する研究が1970-80年代に進んだ。近年では、人間関係の時空間的ダイナミズムやそのネットワーク構造の中での健康や健康資源の移動をモデリングすることで社会構造と健康との関係を明らかにする「ネットワーク分析」や、ゲーム理論や行動経済学、心理学や脳科学の分野で、実験による、助け合い行動における本能と学習の役割、助け合い行動と生体マーカーや脳活動との関連に関する研究の知見が急増している。政策面では、近年、膨張する社会保障費対策に関する議論と相まって、自助・互助・共助・公助など、「助け合い」の新しい“形”が提案されているが、これは「住民への丸投げではないか」といった大きな倫理的議論的でもある。講義はまず90年以前までの社会的ネットワーク・社会サポート研究の基礎的事項を押さえた後、政策応用に向けた課題点について議論する。

6) ソーシャル・キャピタル (近藤)

テキスト10、11章

概要：社会関係と健康との関係について、前講義で扱ったような構造的・機能的側面に加えて、近年その資源的な側面に注目が集まっている。つまり、社会関係を通じて得られる資源、あるいは人や地域とのつながりそのものを資源としてとらえる考え方であり、これを「ソーシャル・キャピタル」という。身近な実例を用いて、公衆衛生活動の実践においてソーシャル・キャピタルの概念を用いることの可能性や注意点について議論する。

7) 職業性ストレス・差別 (川上)

テキスト：第2、6章

概要：職業階層や職種が健康に及ぼす影響について、職業性ストレスを中心に解説する。差別とは、正当な理由によらず偏見や先入観に基づいて特定の人物や集団に対して不利益・不平等な扱いをすることである。性別、年齢、人種、障害等を理由にした差別および社会的排除は健康の重要な社会的決定要因とされている。講義では事前配付資料を元に、この他の研究成果も紹介しながら差別の健康影響に関する科学的根拠の現状を整理する。また社会的包摂を含めた差別による健康格差の解決方法について議論する。

	<p>8) ジェンダーの健康影響 (本庄)        テキスト: 第5章        概要: 性に関する一般的な通念の生物学的な性としての男女に対し、ジェンダーは人間が自分たちの手で形成し社会的に決定された女性および男性のありよう(役割や責任等)を意味する。社会的要因の健康影響を考えると、ジェンダー的視点を組み込むことはそのメカニズムを考える上で重要な理論的枠組みとなる。本講義では先行する実証研究を紹介しながら、ジェンダーの概念や理論的枠組みについて考察する。また、日本で顕著にみられる社会的健康格差の性差についても考えてみたい。</p> <p>9) 胎児期からの社会環境: ライフコース疫学 (藤原)        テキスト: 第4章        概要: 胎児期および小児期の環境の長期的健康影響を検討することをライフコースアプローチという。この講義では、その中心的な考え方であるバーカー仮説について概説し、胎児期の環境が成人期における健康にどの程度影響を与えるのかについて、これまでの研究をまとめつつのメカニズムについて考える。さらに、胎児期・小児期における社会格差がどのように子どもの健康に影響しているのか、虐待や養育環境のパスウェイを中心に最新の知見を紹介する。</p> <p>10) 健康の平等と倫理 (TBA)        テキスト: 第12章        概要: 健康の社会的決定要因に関する実証的な知見が蓄積し、「健康格差の縮小」が政策として謳われるまでになった。人々が健康になることは望ましいことであるが、どのような手段で、またどの程度、健康格差を縮小することが政策として求められるのだろうか。これはいわゆる正義論の問題である。本講義ではロールズの正義論とこの問題に関するその適用を中心について詳しく説明し、理解を深める。</p> <p>11) 社会疫学の因果推論技法 (近藤)        テキスト: 該当なし        概要: 疫学、特に観察疫学は、データの収集から分析に至るまでの全ての過程において、「いかにバイアスを減らすか」が因果推論上の最重要課題となる。本稿では、社会疫学研究で汎用される因果推論技法の基本的な考え方について学ぶことで、健康の社会的決定要因に関するエビデンスがどのように作られているのか、その特徴や注意点について理解する。マルチレベル分析・反事実モデル・有向非巡回グラフを活用した適切な調整変数選択法・傾向スコアマッチング・逆確率重み付け法・自然実験における差の差推定量・操作変数法について概説する。</p> <p>12) 健康格差の制御方法 (近藤)        テキスト: 13章        概要: 健康格差を世界・国・地域というそれぞれのレベルでコントロール方法について、その概念を紹介する。ポピュレーションアプローチの可能性と限界、格差を見すえた新しいポピュレーションアプローチの概念や昨今の行動科学の応用、公衆衛生活動のためのマーケティング手法や <b>social prescribing</b> といった地域レベルの取り組み等について、事例を紹介しつつ解説する。</p>
教科書	川上憲人・橋本英樹・近藤尚己(編著)「社会と健康: 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ」東大出版会
参考書	1. 近藤尚己(著)「健康格差対策の進め方: 効果をもたらす5つの視点」医学書院 健康格差対策の基礎から実践まで、5つの視点からまとめたテキスト。

	<p>2. Berkman&amp;comma; Kawachi&amp;comma; Glymour. Social epidemiology 2nd edition: 邦訳：社会疫学（上・下）</p> <p>社会疫学についてさらに包括的に学びたい人へ向けた、発展的なテキスト。</p>
成績評価の方法	<p>出席および授業中のディスカッション 40% レポート 60%</p> <p>クラス内でのディスカッションは授業の大切な要素である。出席および授業中の発言回数やその内容を評価対象とする。</p> <p>レポートについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* A4 一枚程度とし、最大 2 枚まで。</li> <li>* 提出先：医学部 3 号館 3 階 S310：近藤研究室 あるいはメールで後述の問い合わせ窓口まで</li> <li>* 締切：各講義日の 1 週間後の正午</li> <li>* 課題名・氏名・学籍番号・提出日を明記すること</li> <li>* 事実関係やデータ、フレーズ等引用した場合、必ず引用データの出所を示すこと。引用下資料のリストは最後に記載すること。インターネットからの長文のコピー&amp;ペーストは禁止（図表やデータについては、引用元を明記した上で可）。</li> <li>* 根拠と証拠を伴わない主張をしたものは減点。ユニークなアイデアや意見は加点。</li> </ul>
他の授業との関連・履修上の注意	<p>講義内容については各講師に直接問い合わせること。</p> <p>本コースのトピックの関係について</p> <p>まず社会疫学の概要と、社会と健康をつなぐ疾病論がどのように歴史的に変化してきたか学ぶ。続いて社会疫学における重要な概念である社会経済状況や健康格差について理解したうえで、様々な分野の各論へと進んでいく。景気動向や所得格差などのマクロな社会環境、社会関係やソーシャル・キャピタル、職業性ストレスと差別、胎児期からの社会環境に焦点を当てるライフコース疫学、ジェンダーの健康影響、健康の平等と倫理について、各講師とのディスカッションをまじえながら理解を深める。それらの基礎知識を土台とし実践や研究へつなげていくため、健康格差の制御方法や因果推論技法について学ぶ。</p> <p>「社会と健康 II」では、本コースを基礎として、健康の社会的決定要因に関する知見をどのようにパブリック・ヘルスへ応用するか、健康格差の課題へどう対応するかについて実践的に学ぶ。</p>

科目名	社会と健康 II [科目番号：41918221]		
ターム	A 2	単位数	2
曜日・授業時間帯	金 4&comma; 金 3		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	近藤 尚己、高木 大資		
授業の目的	社会環境要因にアプローチするヘルスプロモーション施策、とりわけ健康格差への対策について、理論と実践の最新動向や課題点について学ぶ。講義では受講者による発表や演習を積極的に取り入れる。		
授業の方法	講義・討論・レポート・課題発表		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>&lt;スケジュール&gt;</p> <p>1・2) 健康格差対策の基本概念と国際的な動向 11/29 3・4 限 【レポート課題あり】</p> <p>3・4) 連携とガバナンス/行動科学の応用 12/6 3・4 限</p> <p>5) 健康格差対策へのデータ活用 12/13 3 限</p> <p>6) 都市環境と健康・犯罪 (高木) + 都市環境と健康・犯罪 (高木) + 行動経済学を活用したナッジの社会実装とアプリの効果評価 (鎌田) 12/13 4 限</p> <p>7) ヘルスコミュニケーションによる健康格差対策 (石川) 12/20 3 限</p> <p>8) 健康格差対策にむけた合意形成手段 12/20 4 限</p> <p>9・10) 課題発表準備 12/24 (火) (曜日が違うので注意)</p> <p>11・12) 課題発表 12/27 3 限・4 限 【レポート課題あり】</p> <p>13・14) 特別講義・健康影響評価(HIA)演習* (藤野) 1/17 3・4 限</p> <p>*1月17日の特別講義は演習形式です。聴講可能ですので、希望者に呼びかけてください</p> <p>&lt;講義内容&gt;</p> <p>1・2) 健康格差対策の国際動向と基本概念</p> <p>概要: 社会環境を改善することにより社会全体の健康を達成しようとする動きが活発になっている。WHO 世界保健機関の声明に続き、日本でも健康日本21 (第2次) の基本姿勢に「健康格差の縮小」が加わった。具体的にどう対策するとよいのかについて、事例を踏まえつつ、理論的な枠組みを学ぶ。「社会と健康 I」の内容を概観した後、疾病予防におけるハイリスク・アプローチとポピュレーション・アプローチそれぞれが健康格差の観点でどう作用するかについて議論する。一般論として、健康格差対策にはポピュレーション・アプローチが推奨されるが、手段によっては健康格差を拡大しかねない。講義の後、コースの最後に予定している課題発表会のグループ分けを行う。</p> <p>3・4) 多部署・官民連携とガバナンス/行動科学の応用</p> <p>社会環境の改善は、保健セクターだけでは実施できない。都市計画や福祉、教育など、多様な部署との連携、および民間企業や住民組織との協力が不可欠である。しかし縦割りに業務が分類されている多くの行政機関の枠組みでは、これが困難である。本講義では、多部署連携によりいわゆる「地域づくり」型の保健政策を進めている自治体の事例を紹介しつつ、どのようにして社会環境を改善できるかについて検討する。</p> <p>また、健康リスクを減らすには、食事や運動など、日々の生活の中での選択をより健康的なものにしてもらう必要がある。しかし人間は常に経済合理的な選択をするわけではない。たとえばストレス状況下におかれた個人はより衝動的な選択をしやすいことが明らかになってきている。一方、これまでの公衆衛生対策の多くは、個人の合理的な選択を前提</p>		



としてきたため、健康という価値を「買ってもらう」ことに成功してこなかった。ビジネス・マーケティングの世界では、客の購買意欲を刺激したり、購入行動への依存的な習慣化を促す様々な方法が経験として蓄積され、一部理論化も進んでいる。諸学の知見やビジネスの経験を応用して、我々が日々、不要なものを「思わず買ってしまう」ように、「思わず健康行動をとってしまう」ような新しいヘルスプロモーションができないだろうか。その効果はどれほどだろうか。倫理的な課題はないだろうか。事例を紹介しつつ、健康格差対策への応用の可能性について議論する。

#### 5) 健康格差対策へのデータ活用

概要：健康格差の評価指標やモニタリングの方法と評価について解説した後、実際のデータを用いて「地域診断」を行い、課題や対象地域の優先順位づけや連携先組織選定についての演習をする。

#### 6) 都市環境と健康・犯罪（高木）＋行動経済学を活用したナッジの社会実装とアプリの効果評価（鎌田）1/18 4限

概要：犯罪学、社会疫学、環境心理学などの分野においては、都市環境が人々の健康や安全に与える影響について多くの研究が蓄積されてきた。たとえば、「地域の人間関係が豊かだと住民の健康が良くなる」という言説は、もはや“常識”として受け入れられつつある。しかし、「メカニズムは何か？」「そもそも人々にとっての“地域”とは何か？」「これらの研究から導き出される適切な介入方法とは何か？」といった問いも常に提起され続けてきた。本講義では、人々の健康・安全に影響を与える都市の地域要因に関するこれらの問いについて、犯罪学、疫学、心理学、社会学などの多様な観点から議論する（高木）。後半は、アプリを使った成功事例の紹介を通して、行動経済学やソーシャル・マーケティングを応用した包括的な地域の参加型介入研究の可能性と課題、健康格差対策への応用可能性について検討する（鎌田）。

#### 7) ヘルスコミュニケーションによる健康格差対策（石川）

概要：マクロ・メゾ・ミクロレベルで行動変容を起こす場合、それぞれどのようにアプローチしていけばよいのだろうか？本講義では、国内外のさまざまな事例をもとに、1) マクロレベルの行動変容とヘルスコミュニケーション、2) メゾレベルのソーシャルネットワークを活用した介入、3) ミクロレベルでの行動科学の歴史と限界、その後の転回、4) そもそも人間行動を理解するとはどういうことか、について学ぶ。

#### 8) 健康格差対策に向けた合意形成手段

概要：地域や社会全を対象とした健康づくりの介入をする場合、練り後する集団の健康に寄与する一方で一部の集団の不健康や不利益を生む場合がある。また、健康以外の事項へも良くも悪くも影響を与える可能性がある。こういった可能性が、ステークホルダー間の軋轢を生むこともよく起きる。度のように、安全で効果的で公正な社会環境整備が他の介入を行えばよいだろうか。近年 **knowledge translation&comma; co-design approach&comma; health impact assessment&comma; community-based participatory research** など、介入の計画段階からステークホルダーを広く巻き込みながら実施していくアプローチが注目されている。健康格差是正のための活動における合意形成手段としての観点からも重要な示唆がある。

#### 9・10) 課題発表準備

各自次週の課題発表の準備をグループで行う

#### 11・12) 課題発表（下記説明を参照のこと）

#### 13・14) 健康影響評価(HIA)演習（藤野）

	<p>概要：「健康格差対策にむけた合意形成手段」の講義で解説した HIA を、事例を使って実際にグループで行う。HIA の第一人者藤野善久教授による特別演習セッション。この回だけの聴講参加を可能とする。希望者に呼びかけてください。</p> <p>&lt; 課題発表の進め方 &gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初日にグループを複数作ります。</li> <li>2. 課題発表は、グループで特定のテーマで調べたことを発表するレビュー形式と、グループ内で2チームに分かれて行うディベート形式のいずれかで行ってください。</li> <li>3. 発表は各班 20 分、フロアディスカッション 30 分)、講評 5 分とします。</li> <li>4. 3 グループ以上の発表がある場合、参加者による投票のうえ、優秀発表 (1, 2 演題) を表彰します。</li> <li>5. 各グループには近藤あるいは T A がアドバイザーとしてつきます。事前準備の際に適宜相談をしてください。</li> <li>6. 配布資料は発表前日正午までに近藤研究室 (kondolab@m.u-tokyo.ac.jp) までメール添付のうえ送信あるいは印刷物を持参すれば、人数分印刷して当日手渡します。それ以降に作成した場合は、人数分用意して当日配布してください。</li> <li>7. レポート提出について：自身が担当した発表課題をまとめて個人単位で提出すること。以下のセクションを設けること。引用文献を適切に用いること。A4 用紙 3 ページ以上。本文のフォントは 10.5-12 ポイント。図表を適宜用いること。</li> </ol> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに (テーマの背景、先行研究や関連理論の概略、レポートの目的)</li> <li>2. 方法 (検索法等、検討事例の進め方、事例の評価法についてなど)</li> <li>3. 発表内容 (コースでの発表内容)</li> <li>4. コースでのディスカッション内容</li> <li>5. 考察と結論：講義でのディスカッション内容を踏まえ、健康格差対策の視点における理論を踏まえつつ重要ポイントについて整理する。公衆衛生的提言も含めるとよりよい)</li> </ol> <p>課題発表レポート提出期限：2018 年 1 月 7 日(火)午後 5 時</p> <p>&lt; 課題発表のテーマ例 (キーワード) &gt;</p> <p>オリジナルのテーマについては近藤に相談してください。</p> <p>ソーダ税やたばこ税の健康格差是正効果</p> <p>幼児教育無償化が健康格差におよぼす影響：無償化のタイプによる効果の違い</p> <p>健康ゴールド免許は健康格差是正につながるか</p> <p>差別問題と健康格差 (ジェンダー・L G B T / 特定の疾病 / 部落差別 / 国籍など)</p> <p>職場の健康格差対策 (メンタルヘルス / 雇用形態 / 男女差 / 企業規模 / ワークライフバランス)</p> <p>社会的処方制度の制度化案</p> <p>医療アクセス格差 (受療行動 / ヘルスリテラシー / 発症後のケア格差)</p> <p>医療現場での健康格差対策 (慢性疾患ケア / 救急医療 / 生活習慣指導)</p>
教 科 書	近藤尚己 (著) 「健康格差対策の進め方：効果をもたらす 5 つの視点」(医学書院) に準じて解説する。必須ではない。
参 考 書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近藤尚己 (著) 「健康格差対策の進め方：効果をもたらす 5 つの視点」(医学書院)</li> <li>2. 藤野善久・近藤尚己・竹内綾乃 (著) 「保健医療従事者のためのマルチレベル分析活用ナビ」診断と治療社 (2013)</li> <li>3. 川上憲人・橋本英樹・近藤尚己 (編著) 「社会と健康 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ」東大出版会 (2015)</li> </ol>

成績評価の方法	出席と態度(30%)・レポート(40%)・課題発表 (30%)
他の授業との関連・履修上の注意	<p>「社会と健康 I」に出席することが望ましい。健康教育学・健康社会学・医療コミュニケーション学などに関連する。公共政策大学院との合同開講。</p> <p>アンケート結果を受け、グループディスカッションの時間をさらに増やし活発に意見交換できるようにした。</p>

科 目 名	産業保健の理論と実践 [科目番号：41918222]		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1&comma; 水 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	川上 憲人、大久保 靖司		
授 業 の 目 的	<p>産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を講義すると同時に、演習を通じて産業保健を職場で遂行するための理論的背景の理解及び実践的技術の基礎を習得することを目的とする。特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析及び参加型職場改善手法と取り上げており実践的な技術を習得することができる。また、課題を提示し、課題に対する企画立案を行う Project based learning を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得する。本科目においては、産業保健の基礎的な学習を修了していない者も第 1 回の産業保健関連法制度・産業保健総論を受講することで必要な基礎知識を修得することができる。</p>		
授 業 の 方 法	<p>担当教員および外部講師によるその時点におけるトピックスに関する講義 事例検討等による実践的学習 Project Based Learning による演習</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9/25 第 1 回 産業保健関連法制度・産業保健総論 第 2 回 産業保健の動向と国際的広がり 10/ 2 第 3 回 産業保健と雇用 第 4 回 産業保健のマネジメント 10/9 第 5 回 化学物質とリスク管理 第 6 回 産業保健と倫理 10/16 第 7 回 産業保健と経済 第 8 回 産業保健と健康リスク管理 10/23 第 9 回 産業保健と危機管理 第 1 0 回 演習：産業保健の計画と評価 10/ 30 第 1 1 回 演習：産業保健の事例分析 I 第 1 2 回 演習：産業保健の事例分析 II (大久保靖司) 11/ 6 第 1 3 回 演習：参加型職場環境改善 I 第 1 4 回 演習：参加型職場環境改善 II 11/13 第 1 5 回 演習：課題発表 I 第 1 6 回 演習：課題発表 II  </p>		
教 科 書	指定しない。		
参 考 書	指定しない		
成績評価の方法	出席(40%)、課題発表及びレポート(60%)		
他の授業との関連・履修上の注意	特になし 精神保健学 II、健康危機管理学、医療安全管理学、環境健康医学と関連する。		

科目名	保健医療人材育成学			[科目番号：41918223]
ターム	S 1	単位数	2	
曜日・授業時間帯	火 1&comma; 火 2			
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担当教員	大西 弘高			
授業の目的	保健医療分野における人材育成とは、地域や国における保健・医療のニーズに対し、医療人材育成やその制度の開発によって、改善するプロセスである。この科目では、学習や教育に関する理論、カリキュラム開発、プログラム評価、インストラクショナル・デザインの考えを理解しつつ、自らコースや授業を組み立て、評価できるような能力を培うことを目的とする。			
授業の方法	毎回アクティブラーニングを含めた授業を展開する。プロジェクト発表は、①学生が他の学生の前でプレゼンテーション、②プロジェクト発表について振り返った後、レポートを提出、の両方を評価する。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4月9日 医療人材育成とは、ワークショップとワールドカフェ 4月16日 インストラクショナル・デザイン、講義技法 4月23日 プロジェクト発表1 5月7日 カリキュラム開発：カリキュラムとは、ニーズ評価、教育・学習目標 5月14日 カリキュラム開発：方略、実施、評価 5月21日 医療人材育成の最新トピックス：プロフェッショナリズムの教育、多職種連携教育、地域基盤型教育 5月28日 プロジェクト発表2   6月4日 レポート提出締切			
教科書	特になし			
参考書	Kern ら「医学教育プログラム開発」、Harden ら「医学教育を学び始める人のために」、は参考になる。			
成績評価の方法	出席 (20%)、プロジェクト発表 (40%)、振り返りレポート (40%)			
他の授業との関連・履修上の注意	医学部総合中央館 (医学図書館) 3FM1 室で実施します。部屋は 8:20 に開けます。動きやすい服装でお越しください。			

科目名	学習者評価学 [科目番号：41918224]		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 2&comma; 火 1		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大西 弘高		
授 業 の 目 的	<p>学習者評価は、人材育成、教育、研修などを行った後に、学習が想定したように行われたかを確認するために行う教育的に非常に重要な活動の一つである。学習者評価の手法は近年ますます多様化し、適切な方法を選択し、組み合わせることは簡単でなくなってきた。この授業では、学習者評価に関して様々な側面から最新の理論を提示すると共に、そのデータをプログラム評価や研究に用いることも想定し、適切な評価手法の組み合わせ方、データの信頼性・妥当性といった側面に関して論じることができるレベルを目指す。</p>		
授 業 の 方 法	<p>毎回テーマに応じた講義とグループディスカッション、一部コンピュータ上で行うデータ解析の作業。グループ発表など。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9月24日 ①教育の持続的改善と教育介入の評価、②評価・評定と心理測定  10月1日 ①学習目標と評価手法の関係、②評価データの処理方法  10月8日 ①学習者評価の妥当性（よい学習者評価とは）、②筆記試験と MCQ の項目分析  10月15日 ①実技試験 (OSCE)、②合否判定基準設定  10月29日 ①業務基盤型評価 (ポートフォリオ)、②信頼性、評価手法間の関連性  11月5日 ①全国的な試験制度の管理、②一般化可能性理論  11月12日 何か評価方法の一つを選んで、その問題点の分析と改善案について論じる発表。  発表を振り返ってのレポートを3日以内に提出する。</p>		
教 科 書	特になし		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席 (20%)、最終発表 (40%)、振り返りレポート (40%)		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>Microsoft Excel、またはそれに類した表計算ソフトウェアの入ったコンピュータ持参が必須になる。  医学部総合中央館 (医学図書館) 3F M1 室で実施する。</p>		

科目名	日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan [科目番号：41918225]		
ターム	S 2	単位数	1
曜日・授業時間帯	月 4		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	川上 憲人		
授業の目的	<p>英語により日本の保健医療制度およびサービスについて概説し、日本の保健医療制度をグローバルな視点から学ぶ機会を提供すると同時に、学生の保健医療制度に関する国際的なコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>This class will provide an overview of health care system and services in Japan; to provide opportunities of viewing health care system and services in Japan from a global perspective and to promote the ability of students on international communication on the topics of health care system and service.</p>		
授業の方法	<p>授業は英語で行う。原則として、授業時間の半分を講義、半分は学生による討議と質疑とする。各回とも最後にレポート課題を提示する。</p> <p>Classes will be taught in English. Each class consists of lecture and question/discussion; with a presentation of a report subject.</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>June 10 #1. Introduction to health care system in Japan (Prof Kobayashi)</p> <p>June 17 #2. Where do we stand in maternal and child health services? - Lessons from the past and current challenges - (Prof Takahashi; Part-time lecturer)</p> <p>June 24 #3. Mental health and disability (Dr Baba; Part-time lecturer)</p> <p>July 1 #4. Long-term care for elderly (Prof. Hashimoto)</p> <p>July 8 #5. Occupational health (Prof Kawakami)</p> <p>July 22 #6. Health-related big data in Japan (Prof Yasunaga)</p> <p>July 29 #7. Social disparity in health (Assoc. Prof Kondo)  </p>		
教科書	指定しない。 Not designated.		
参考書	The Lancet - Japan: Universal Health Care at 50 Years: <a href="http://www.thelancet.com/series/japan">www.thelancet.com/series/japan</a>		
成績評価の方法	出席(50%) およびレポート(50%)   Class attendance (50%) and Report (50%)		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>レポートは、各教員から示されたもののうち2つのテーマを選び、MS ワードあるいはPDF形式で、8月5日までに電子メールで&lt; utsphsubmit@gmail.com &gt;まで提出すること。言語は英語とする。レポートには、学生氏名、学籍番号、選択された講義テーマ、提出日を記載すること。</p> <p>A student report on two topics selected from those indicated by a faculty member in charge of each class should be prepared in a MS Word or PDF format and submitted via e-mail to &lt; utsphsubmit@gmail.com &gt; by Aug 5. The language is limited to English. Each report should include the name of the student; student id no.; the selected topic; and date for submission.</p>		

科 目 名	健康医療政策学		[科目番号：41918311]
タ ー ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 5		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小林 廉毅、豊川 智之		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを学習するとともに、実際の事例を通じて理解を深める。		
授 業 の 方 法	講義、ゲストスピーカーによる報告、質疑応答・討論などによる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	① 9/30 健康医療政策とはなにかーイントロダクション (小林) ② 10/7 地域医療構想の実現に向けたデータの活用 (ゲストスピーカー) (小林) ③ 10/21 医療の質の測定 (東) ④ 10/28 科学的根拠に基づく政策 (がん対策) (東) ⑤ 11/11 わが国の喫煙対策をめぐる議論 (ゲストスピーカー) (小林) ⑥ 11/18 特定健診・保健指導の現状と課題 (李) ⑦ 11/25 (4 時限 14:55-16:40) 特別講義 (馬場園講師) ⑧ 11/25 (5 時限 16:50-18:35) // ( // ) ⑨ 12/2 医療行政の現場 (ゲストスピーカー) (小林) ⑩ 12/9 医療へのアクセスと医療政策 (豊川) ⑪ 12/16 日本における医療政策決定過程ーメディアからの視点 ⑫ 12/23 (4 時限 14:55-16:40) 政策課題プレゼンテーション(1) (学生) ⑬ 12/23 (5 時限 16:50-18:35) 政策課題プレゼンテーション(2) (学生) ⑭ 1/6 (予備日)		
教 科 書	なし		
参 考 書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)		
成績評価の方法	出席(約 60%)、授業でのプレゼンテーション・ミニレポート(約 40%)に基づいて評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	11/25 および 12/23 については、4 時限にも授業を予定している。 聴講者、他学部聴講者については初回授業でその旨を責任教員に伝えること。		



科目名	医療情報システム学 [科目番号：41918312]		
タ ー ム	S 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 4&comma; 金 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大江 和彦		
授 業 の 目 的	<p>現在の医療が抱える課題を IT による解決していくにはどうしたらよいかについて理解し、臨床的なエビデンスや医療変革のための知見を得るための基盤情報システムとしての電子カルテやレセプトなどの医療情報データベースの意義と課題を理解する。また医療情報がどのように医療サービスシステムの中で管理・活用されるべきかについて議論する。こうしたことを通じて現在の医療システムの変革につなげる方策と制度との関連性を学ぶ。また医療データを扱う上で避けて通れないデータのコーディングと標準化の重要性、暗号化を含むセキュリティー技術についても理解する。さらに人工知能技術 (AI) とりわけ機械学習と深層学習についてその基本的な手法と医療データへの適用に関する展望と課題を学ぶ。</p>		
授 業 の 方 法	<p>医療サービスやそれに関わる医療 IT 政策、地域医療におけるフィールド実証実験に関するテーマを順にとりあげ、それぞれにおいて医療情報システム、データベース、情報通信技術 (IT)、法令や制度がどのように関わり、課題と関連しているかについて講義し、議論する。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4 月 5 日 (初回) に全体の授業計画を説明する。全体は 13 コマからなる。各回のテーマを入れ替えることがあり、下記のテーマ順序はおおよその例示である。</p> <p>1) 4 月 5 日 2 コマ 医療情報化政策と関連する情報技術基盤、制度の概要 * 4 月 1 2 日は入学式のため休講</p> <p>2) 4 月 19 日 2 コマ 電子カルテシステム、医療情報の標準化</p> <p>3) 4 月 26 日 1 コマ (* 3 限または 4 限) モバイル IT 医療のインパクト</p> <p>4) 5 月 10 日 2 コマ 情報ネットワーク技術と個人情報保護</p> <p>5) 5 月 17 日 2 コマ 地域医療情報連携と診療情報管理</p> <p>6) 5 月 24 日 2 コマ 医療における高度情報処理—人工知能技術の応用</p> <p>7) 5 月 31 日 2 コマ 医療における自然言語処理、試験</p>		
教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報 情報処理技術編 (篠原出版新社)</li> <li>・医療情報 医療情報システム編 (篠原出版新社)</li> <li>・内閣官房高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT 総合戦略本部) HP</li> </ul>		
参 考 書	<p>Biomedical Informatics: Computer Applications in Health Care and Biomedicine Editors: Shortliffe&amp;comma; Edward H.&amp;comma; Cimino&amp;comma; James J. (Eds.) Springer; 4th ed. 2014 版 SBN-10: 1447144732 ISBN-13: 978-1447144731</p>		
成績評価の方法	出席率 30%、試験点数 70%の比重で総合的に判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>保健医療経済学：医療経済学的観点で医療情報システムを理解する上で関連性を有する。</p> <p>公共健康情報学：健康をとりまく種々の公共情動的側面を知るうえで、関連性が強く、同時に受講することが望ましい。</p> <p>臨床疫学：医療情報システムから収集される大規模データの解析の実例や手法を学ぶ上で</p>		

	関連が深い。
--	--------

科目名	医療情報システム学実習 [科目番号：41918313]		
ターム	S 2	単位数	1
曜日・授業時間帯	木 1&comma; 木 2		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	大江 和彦		
授業の目的	医療情報システム学教室で開発し研究者に提供している多目的臨床症例登録システム MCDRS (マックドクターズ) を使って研究管理者として疾患登録システムを稼働させ、臨床症例を登録する実習を通して、医療データベースの考え方、電子カルテシステムとのデータ連携の手法、医療情報の標準化、クラウド上と医療機関上のネットワークの違い、データベース変換など医療情報システムを臨床や研究で活用していく基本的な技法と実践的知識を身につける。またファイルの暗号化等々の技術的な仕組み、仮想化システムの仕組みを体験する。また医療データを用いた簡単な AI (深層学習) に関する実習を行う。		
授業の方法	医療情報システム学教室で開発し研究者に提供している多目的臨床症例登録システム MCDRS (マックドクターズ) 使って研究管理者として疾患登録システムを稼働させ、臨床症例を登録する実習を行う。 後半は人工知能 (AI) の代表技術である深層学習、自然言語処理の入門的実習を行う。 また暗号化ファイルの取扱いを実習する。 (プログラミング技術を身につける実習はしない。) 各自のノートパソコン持参して実習する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	初回年 6 月 13 日 (木) 計 7 日 14 コマ 6 月 13, 20, 27, 7 月 4, 11, 18, 25 日 【★1 限冒頭の遅刻厳禁。コンピュータを使った実習方法を毎回歩調を全員で合わせて説明するため一人が遅刻するとあとでその人のために教員リソースを割く必要が生じ、他の皆が迷惑します。】 6 月 13、20、27 日 特定の疾患に各自がフォーカスを絞り、多目的臨床症例登録システム MCDRS を使って My 症例データベースを作ることによって種々の医療情報技術を習得する。 1) 対象疾患の決定と登録すべき項目の決定 2) 登録項目シートの作成 3) Web 版多施設症例登録システムを自分でインターネット上に稼働させる。 4) 試験的な患者登録を行う。相互症例登録実験 7 月 4 日-18 日 (予定) 自然言語処理と深層学習による医療データ処理入門 7 月 25 日 医療データの暗号化。		
教科書	パソコンは各自所有のノート PC の使用を原則とするが、所有していない場合には当方で用意し実習期間中は貸与する。各自のノート PC で実習する関係で事前に希望者は申し出て PC 機種情報を申告する。実習パソコンでは Web ブラウザとエクセルが使える必要がある。各自にそれ以上のパソコンスキル、プログラミングスキルは不要である。		
参考書	多目的臨床症例登録システム MCDRS のホームページ資料( <a href="http://mcdrs.jp">Http://mcdrs.jp</a> )		
成績評価の方法	出席状況 (60%)、出来上がりデータベース等 (40%)を総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医療情報システム学講義を受講しているほうが実習を理解しやすい。		

科 目 名	法医学・医事法学 [科目番号：41918316]		
タ ー ム	S1S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	岩瀬 博太郎、槇野 陽介		
授 業 の 目 的	法医学の学問的目的を理解する。法医学における各分野（法病理学、法遺伝学、法中毒学、法歯科学、法画像診断学、臨床法医学）で実施される業務に関して、その目的と内容を理解する。		
授 業 の 方 法	座学をメインとするが、PBL 形式の授業も考慮する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法医学とは</li> <li>2. 日本の死因究明制度</li> <li>3. 世界の死因究明制度</li> <li>4. 医師と政治の関わり</li> <li>5. 虐待と乳幼児の死亡</li> <li>6. 法画像診断学</li> <li>7. 法中毒学 1 (総論)</li> <li>8. 法中毒学 2 (各論)</li> <li>9. 法遺伝学</li> <li>10. 法歯科学</li> <li>11. 災害と法医学</li> <li>12. 法医学を巡る動き</li> <li>12. 診療関連死</li> </ol>		
教 科 書	エッセンシャル法医学		
参 考 書	死体は今日も泣いている、光文社		
成績評価の方法	出席 (40 点) レポート (60 点)		
他の授業との関連・履修上の注意	解剖見学も受けつけます		

科 目 名	健康危機管理学			[科目番号：41918320]
タ ー ム	S 1	単 位 数	1	
曜日・授業時間帯	月 1&comma; 月 2			
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担 当 教 員	小林 廉毅			
授 業 の 目 的	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の事例、健康危機突発事の原因同定と対応策、リスクコミュニケーション、平時におけるサーベイランスについて学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。			
授 業 の 方 法	講義及び過去の典型的な事例を用いた事例研究 (ケーススタディ) による。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 / 1 5 (月) 健康危機管理概論、新興・再興感染症 (岡部講師) 公衆衛生サーベイランス (小林) 4 / 2 2 (月) 感染症アウトブレイクへの対応 (中島講師) 災害医療とリスクコミュニケーション (富尾講師) 5 / 1 3 (月) アウトブレイクへの対応(1) (ケーススタディ) (中島講師、富尾講師) アウトブレイクへの対応(2) (ケーススタディ) (中島講師、富尾講師) 5 / 2 0 (月) (2 時限) 保健行政における健康危機管理 (田中講師)			
教 科 書	なし			
参 考 書	「最新感染症ガイド R-Book 2015」(日本小児医事出版社、2016 年) 「感染症予防必携 第 3 版」(日本公衆衛生協会、2015 年)			
成績評価の方法	出席 (約 60%) 及びレポート (約 40%) に基づいて評価する。			
他の授業との関連・履修上の注意	他学部聴講者については初回授業時に責任教員にその旨を伝えること。			

科目名	保健行政・健康危機管理学実習			[科目番号：41918321]
タ　　一　　ム	集中	単　　位　　数	2	
曜日・授業時間帯	集中			
場　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室			
担　当　教　員	小林 廉毅			
授　業　の　目　的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。			
授　業　の　方　法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	実習先（保健所等）における実習計画に基づいて行う。 実習期間は受入先との相談の上決定するが、今年度は 9/2（月）～9/13（金）を予定している。			
教　科　書	なし			
参　考　書	「衛生行政大要 改訂第 24 版」（日本公衆衛生協会、2016 年）			
成績評価の方法	出席(50%)、実習態度(40%)、実習報告書(10%)を目安に評価するが、いずれも必須である（合否で判定）。			
他の授業との関連・履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「健康危機管理学」の履修を必須とする。</li> <li>2. 本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先の指定する資格を取得している者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数を制限することがある。</li> </ol>			

科目名	環境健康医学 [科目番号：41918322]		
タ ー ム	S 2	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	月 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	KIM YOONHEE		
授 業 の 目 的	<p>This course introduces students to environmental health perspectives on how environmental factors influence human health at individual and population levels. Students will understand basic concepts and methods to assess environmental exposures and health effects. Studies for specific environmental factors (air pollution&amp;comma; water pollution&amp;comma; weather and climate variability) associated with health will be covered and discussed in the course.</p>		
授 業 の 方 法	Lecture and group discussion		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>#1. June 10 Overview and basic principles of environmental health  #2. June 17 Environmental exposure assessment  #3. June 24 Health effect assessment  #4. July 1 Air pollution and human health &amp; group discussion  #5. July 8 Weather and climate variability and human health &amp; group discussion  #6. July 22 Water pollution and human health (guest lecturer)  #7. July 29 Group presentations</p>		
教 科 書	<p>Ray M. Merrill. Environmental epidemiology: principles and methods. Jones and Bartlett Publishers  Dean Baker and Mark J. Nieuwenhuijsen. Environmental epidemiology: study methods and application. Oxford  </p>		
参 考 書	<p>World Health Organization (WHO) <a href="http://www.who.int/">http://www.who.int/</a>   International Society for Environmental Epidemiology (ISEE) <a href="http://www.iseepi.org/">http://www.iseepi.org/</a>   International Society of Exposure Science (ISES) <a href="https://www.intlexposurescience.org/">https://www.intlexposurescience.org/</a>   Environmental health perspectives</p>		
成 績 評 価 の 方 法	<p>20% Attendance  30% Short reactions (1-2 pages; 2 times)  25% Term paper  25% Group presentation</p>		
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• All lectures are given in English.</li> <li>• All assignments should be written/presented in English.</li> </ul>		

科 目 名	公共健康情報学 [科目番号：41918323]		
タ ー ム	S 2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 4&comma; 金 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小山 博史		
授 業 の 目 的	<p>公共健康情報学入門の目的は、健康管理や予防活動を改善するための健康情報学および健康情報技術の方法論と概念に関する知識を得ることです。それは、現在あるいは将来、国や地方自治体でパブリックヘルスの専門家として働く際に情報学を利活用したい人を対象としています。</p> <p>The goal of the Introduction of the Public Health Informatics (PHI) is to offer the grounding in methods and concepts of health informatics and health information technology for application to public health and population health. It is designed for current and future public health professionals who wish to develop PHI expertise or specialization to work in policy or management.</p>		
授 業 の 方 法	<p>講義 (約 70 分) + 質疑応答 (約 35 分)</p> <p>Active learning: 毎回課題を決めてチームで調べて発表してもらいます。</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>6 月 7 日 13:00 Evidence-based public health (小山) 健康情報とその公共性 (小山)</p> <p>6 月 14 日 パブリックヘルスにおける情報倫理 (小山) 公共健康情報学とは (小山)</p> <p>6 月 21 日 予防接種情報システム (小山) 総合討論 (Active Learning): 「日米比較研究」 (小山)</p> <p>6 月 28 日 災害医療における情報処理 (仮) (日本医科大学 准教授: 布施明先生) 地理情報システム (GIS) (小山)</p> <p>7 月 05 日 リアルワールドデータを通して見えるもの: 人間・社会を巡る「データ」の疫学的な活用に向けて (京都大学医学研究科 教授: 中山健夫先生) 総合討論 (Active Learning): 「サーベイランスシステムの日米比較」 (小山)</p> <p>7 月 12 日   がんゲノム医療提供体制の構想と課題 (国立がん研究センター中央病院遺伝子診療部門長: 吉田輝彦先生) データマイニングの基礎 (R 入門) (小山)</p> <p>7 月 19 日 がん情報提供等の現状と課題 (国立がん研究センター がん対策情報センター長 若尾文彦先生) 健康情報提供の現状と課題 (小山)</p> <p>7 月 27 日 総合討論 (Active Learning)</p>		
教 科 書	Magnuson&comma; J.A.&comma; Fu&comma; Jr.&comma; Paul C. (Eds.). Public health informatics and information systems. Springer; 2nd ed. (2013/12/19)		



参 考 書	Magnuson&comma; J.A.&comma; Fu&comma; Jr.&comma; Paul C. (Eds.). Public health informatics and information systems. Springer; 2nd ed. (2013/12/19)
成績評価の方法	出席 (約 40%)、小テスト総合討論 (約 30%)、期末テスト (約 30%)
他の授業との関連・履修上の注意	聴講は原則不可。理由は、班ごとに課題についての発表を行う講義もあるため他の学生に迷惑になる可能性があるためです。

科 目 名	公共健康情報学演習 [科目番号：41918324]		
タ ー ム	A 1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 3&comma; 金 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小山 博史		
授 業 の 目 的	<p>授業の目標・概要：世界中の情報学者は、私たちが人間の健康を改善するために情報をよりよく利用することを可能にする進歩をしています。公衆衛生情報学のためのこの演習では、R ソフトウェアと VR テクノロジーを使用した将来の健康情報学に焦点を当て、研究者、研究チーム、情報専門家、および管理者が使用できる実用的な知識とスキルを提供します。</p> <p>Informaticians around the world are making advances that enable us to better use the information to improve human health. This exercise for Public Health Informatics focuses on the future of health informatics using R software and VR technology and provides practical knowledge and skills that investigators&amp;comma; research teams&amp;comma; informaticians&amp;comma; and administrators can use.</p>		
授 業 の 方 法	<p>演習についての印刷資料をもとに自分の PC を用いて演習を行う。データサイエンスと機械学習、空間疫学入門には R (または Python) 用いる予定です。医療用 VR アプリ開発入門ではスマホで体験できる VR アプリを UNITYTM あるいは UNREALTM などの開発キットを用いる予定です。各演習は、基本的に演習用の資料を用いて行います。</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>授業詳細：</p> <p>9 月 27 日 13:00 パブリックヘルスにおけるデータサイエンス入門 (小山)：パブリックヘルス分野の基本的なデータ処理法について R (または Python) についての演習を行います。</p> <p>10 月 4 日： 機械学習入門 1 (市川、小山)：パブリックヘルス分野のデータを用いて主に予測 (識別と回帰) についての演習を行います。</p> <p>10 月 11 日： 機械学習入門 2 (市川、小山)：パブリックヘルス分野のデータを用いて主に予測 (識別と回帰) についての演習を行います。</p> <p>10 月 18 日： 空間疫学入門 (疾患地図等) (小山)：疾患地図とは、疾患への罹患・死亡の危険性 (リスク) を主題とする一種のリスクマップのことです。パブリックヘルス従事者には大変重要な情報の一つです。ここでは R を用いた疾患地図の作成についての演習を行います。</p> <p>10 月 25 日： 空間疫学入門 (地域格差等) (小山)：パブリックヘルス活動において地域格差は大きな問題です。ここでは空間疫学的手法を用いた地域格差の可視化についての演習を行います。</p> <p>11 月 1 日： 医療用 VR アプリ開発入門 1 (斎藤)：パブリックヘルス活動には評価分析、政策立案、介入サイクルが必要です。近年、認知症の理解と共感や健康増進アプリへ VR 技術が積極的に応用されるようになってきました。ここでは、まず、VR 開発ツールを用いた簡単な VR アプリの作成法についての演習を行います。</p>		

	<p>11月8日： 医療用VRアプリ開発入門2（斎藤）：VR開発ツールを用いた簡単なVRアプリ改良法についての演習を行います。</p> <p>11月15日： 医療用VRアプリ開発入門3（斎藤）：作成したVRアプリをスマートフォン等で体験し、VR技術の評価演習を行います。</p>
教科書	演習についての印刷資料
参考書	RやPython、UNITYについては数多くの書物がでています。また、インターネット上の教材もあるので参考にしてください。
成績評価の方法	出席（約50%）、レポート（約50%）
他の授業との関連・履修上の注意	使用するPCは持参してください。

科目名	環境健康医学研究方法論 [科目番号：41918330]		
タ ー ム	A 1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	月 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	KIM YOONHEE		
授業の目的	<p>This course introduces students to the advanced methodologies to investigate the short-term effects of environmental risk factors on human health. It will provide basic concepts; study designs and statistical regression models using time-series data that have been widely used and intensively developed for the last few decades in the field of environmental epidemiology. Students will be able to interpret time-series data and regression models and acquire skills to apply the methodologies through hands-on practice using R.</p>		
授業の方法	Lecture and practical		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>#1. September 30 Introduction to R basics and descriptive analysis  #2. October 7 Study design s and time-series (TS) regression modeling  #3. October 7 (13:00-14:45) Practical for TS regression modeling  October 14 National holiday  #4. October 21 Nonlinear association estimation using TS model  #5. October 28 Distributed lag nonlinear model (DLNM)  #6. October 28 (13:00-14:45) Practical for DLNM  November 4 National holiday  #7. November 11 Two-stage design</p>		
教科書	<p>Roger D. Peng and Francesca Dominici. 2008. Statistical Methods for Environmental Epidemiology with R: A Case Study in Air Pollution and Health. Springer.  Adrian G. Barnett and Annette J. Dobson. 2010. Analysing Seasonal Health Data. Springer.  Dean Baker and Mark J. Nieuwenhuijsen. 2008. Environmental epidemiology: study methods and application. Oxford University Press.</p>		
参考書	<p>International Society for Environmental Epidemiology (ISEE): <a href="http://www.iseepi.org/">http://www.iseepi.org/</a>  Environmental health perspectives: <a href="https://ehp.niehs.nih.gov/">https://ehp.niehs.nih.gov/</a>  Occupational and Environmental Medicine: <a href="http://oem.bmj.com">http://oem.bmj.com</a>  International Journal of Epidemiology: <a href="https://academic.oup.com/ije">https://academic.oup.com/ije</a></p>		
成績評価の方法	<p>20% Attendance &amp; attitude  50% Assignments (2 times)  30% Final term paper</p>		
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Please bring your laptop for every class.</li> <li>• All students should be able to access Wi-Fi in practical sessions.</li> <li>• All lectures are given in English.</li> <li>• All assignments should be written in English.</li> </ul>		

科 目 名	インターンシップ			[科目番号：41918411]
タ ー ム	通年	単 位 数	2	
曜日・授業時間帯	集中			
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担 当 教 員	橋本 英樹			
授 業 の 目 的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。			
授 業 の 方 法	<p>学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受入先（上記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受入先の状況に応じて受入先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。</p> <p>*募集期間 5 月中旬および 1 月下旬</p>			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>8～9月中の2～3週間（募集5月中旬）または3月中の2～3週間（募集1月下旬）の期間での実施を原則とする。</p> <p>インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。</p> <p>○受入先一覧</p> <p>No インターンシップ受入先及びテーマ（予定）（括弧内は担当教員・部署）</p> <p>1 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所（佐々木教授） 栄養疫学に関するデータ収集および分析の援助</p> <p>2 NPO メンタルケア協議会（医学部大学院係）</p> <p>① 東京都自殺相談ダイヤル相談記録に基づく相談者傾向の分析等</p> <p>② 東京都精神科救急医療情報センター相談記録に基づく救急医療利用の傾向変化についての分析等</p> <p>③ 自殺未遂者対応連携支援事業における G・P 連携の効果評価</p> <p>3 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報・統計部（松山教授）</p> <p>① 臨床研究現場の見学：臨床試験・研究の立案プロセス等を知り、医療機関で働く生物統計家や臨床試験・研究に関する専門家の役割を学ぶ</p> <p>② 臨床試験データの解析演習</p> <p>4 国立研究開発法人 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供部（木内教授）</p> <p>患者・市民から信頼される、活用される情報づくりの実際を学ぶ</p> <p>患者・市民向けの情報の作成手順や手続きの必要性や役割を学ぶとともに、エビデンスの抽出方法や患者・市民の視点での表現方法等を学ぶ</p> <p>4 国立保健医療科学院（松山教授）</p> <p>医療技術や医薬品等の費用対効果の評価と活用</p> <p>5 株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ）（医学部大学院係）</p> <p>保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務など</p> <p>6 株式会社キャンサーズキャン（川上教授）</p> <p>・Python を用いた健康関連データの解析ならびに施策提案</p>			

	<p>・自治体等をフィールドに、行動科学の枠組みを用いた住民のセグメンテーションとそれを応用したマーケティングを用いた介入の計画・実施・評価</p> <p>上記以外の機関については、専攻長まで希望を書面で提出し、専攻会議で承認を受けることでインターンシップを行うことができる。</p>
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価の方法	出席（30%）、実習態度（30%）、インターンシップ報告書（40%）に基づいて評価する。
他の授業との関連・履修上の注意	<p>インターンシップ参加決定後の問題点等は、指導教員（研究室配属されていない場合には専攻長）と相談の上、窓口教員あるいは大学院係まで</p> <p>インターンシップ先での事故等に関する責任・保険の必要有無、インターンシップ先との守秘義務契約など事前に相談が必要となるものについては指導教員および専攻長に早めに連絡を</p>

科目名	公共健康医学特論	[科目番号：41918511]
タ ー ム	S 1	単 位 数 2
曜日・授業時間帯	月 5&comma; 月 4	
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室	
担 当 教 員	橋本 英樹、豊川 智之	
授 業 の 目 的	public health の歴史、意義、社会的要請を理解し、public health の実践者・研究者として求められる規範・視野・資質 (competency) を自ら育てていく基本的姿勢を講義・討論を通じて修得する。	
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分野の教員と外部講師による講義を行う</li> <li>・テーマごとに資料が配布される</li> </ul>	
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>授業計画及び内容 (各回のテーマ)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 4/8 14:55-16:40 public health の歴史と SPH の誕生 (小林)</li> <li>2) 4/8 16:50-18:35 MPH になにが求められるか (川上)</li> <li>3) 4/15 14:55-16:40 public health の実践と理論 (佐々木)</li> <li>4) 4/15 16:50-18:35 ディスカッション (橋本)</li> <li>5) 4/22 14:55-16:40 経済学と public health (康永)</li> <li>6) 4/22 16:50-18:35 個人情報とビッグデータ (大江)</li> <li>7) 5/13 14:55-16:40 global public health (神馬)</li> <li>8) 5/13 16:50-18:35 健康政策とポリティクス (鈴木 寛 公共政策大学院教授)</li> <li>9) 5/20 14:55-16:40 行政から見た public health (佐々木昌弘 厚生労働省健康局課長)</li> <li>10) 5/20 16:50-18:35 行政から見た public health (細川えみ子 元八王子保健所所長)</li> <li>11) 5/27 14:55-16:40 evidence-based policy making (橋本)</li> <li>12) 5/27 16:50-18:35 Health policy in Asian perspective (Kim CY&amp;comma; Seoul National University)</li> <li>13) 6/3 14:55-16:40 public health におけるリーダーシップ (川上)</li> <li>14) 6/3 16:50-18:35 総合ディスカッション (橋本 ほか)</li> </ol>	
教 科 書	講義毎に異なるので適宜指示する。	
参 考 書	講義毎に異なるので適宜指示する。	
成績評価の方法	各回の出席 (50%)・レポート (2回・合わせて 50%) を総合的に評価して判定する。	
他の授業との関連・履修上の注意	<p>他の授業のすべてと関連を有する。</p> <p>レポート提出などの質問などは豊川 (健康医療政策学 <a href="mailto:toyokawa@m.u-tokyo.ac.jp">toyokawa@m.u-tokyo.ac.jp</a>) 橋本 (保健社会行動学 <a href="mailto:hidehashimoto-circ@umin.ac.jp">hidehashimoto-circ@umin.ac.jp</a>)まで</p>	

科目名	課題研究 [科目番号：41918611]		
タ　　一　　ム	集中	単　　位　　数	6
曜日・授業時間帯	集中		
場　　　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担　　当　　教　　員	橋本 英樹、川上 憲人		
授　　業　　の　　目　　的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授　　業　　の　　方　　法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 月～12 月 課題研究 2020 年 1 月 10 日 (金) 全日 課題研究発表会		
教　　科　　書	特になし		
参　　考　　書	特になし		
成績評価の方法	出席状況 (50%) 及び課題研究の成果 (課題研究論文) (50%) で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	出席状況 (50%) 及び課題研究の成果 (課題研究論文) (50%) を発表会にて評価する。課題研究発表会には、発表をしない学生も必ず出席し、質疑に参加するとともに、課題研究発表の内容に対して学生評価を行う。		



## 6. 公共健康医学専攻成績評価規則

### 公共健康医学専攻成績評価規則

制定 平19. 4. 1

改正 平26. 7. 23

#### (成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, Fの5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

#### (成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, Fの基準は、下記の通りとする。

A+ 90点以上

A 80点以上

B 70点以上

C 60点以上

F 不合格(60点未満)

#### (成績評価)

第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。

3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

#### (成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、成績の通知を受けてから1ヶ月以内に限り所定の方式に従い、教員に対して説明を求めることができる。

#### (筆記試験の実施)

第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

#### 附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

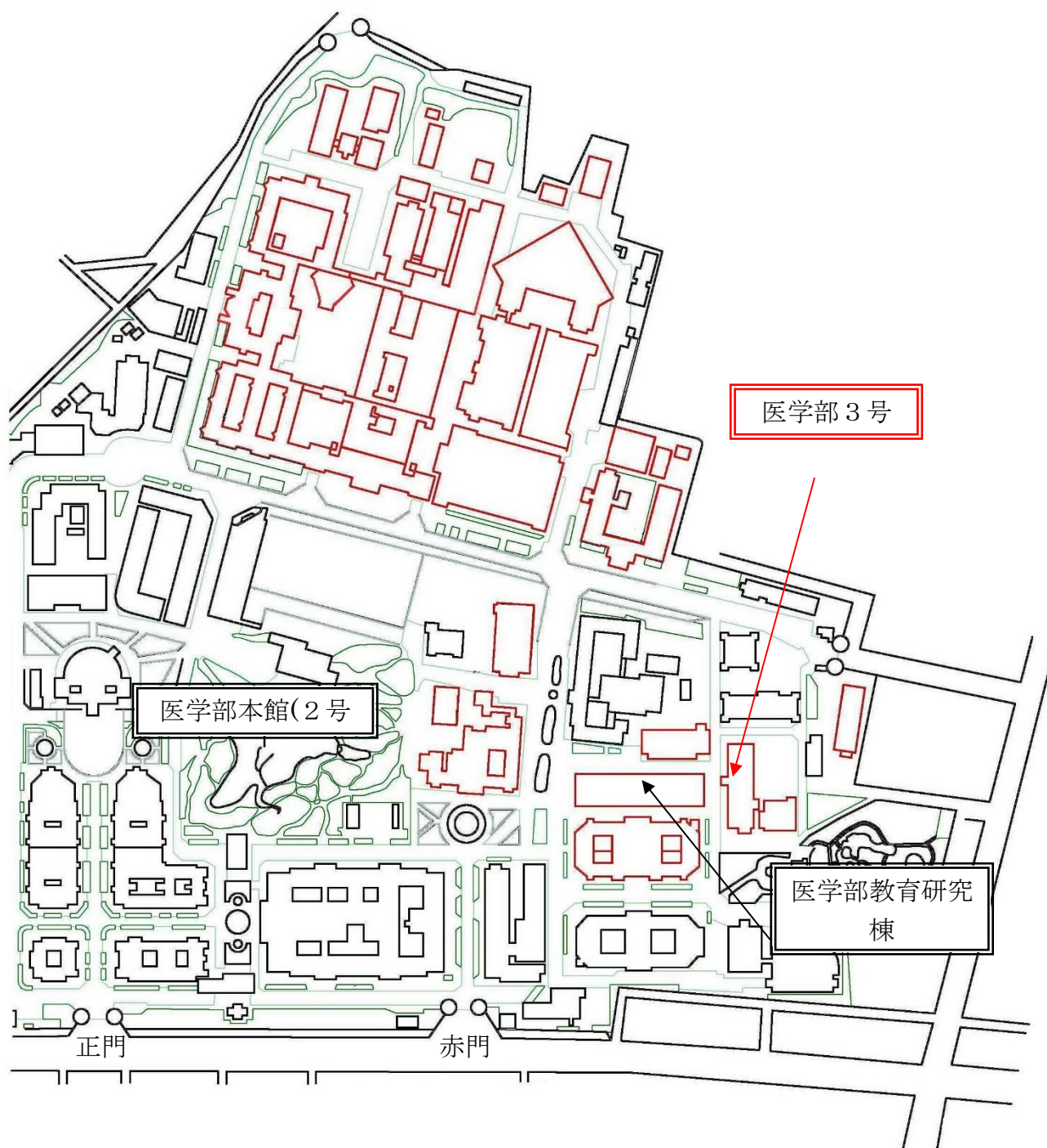
## 7. 公共政策大学院との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
P. 54	41918326	社会保障法政策 (島崎)	2	A1・A2	月	6	公共健康医学専攻 (SPH) 講義室

科目名	社会保障法政策 [科目番号：41918326]		
タ ャ ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 6		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	島崎 謙治		
授 業 の 目 的	<p>社会保障をめぐる法政策は、高齢化・少子化の進展、経済成長の低迷、経済活動の国際化など、社会経済の大きな変化を背景に、非常にダイナミックな動きを見せている。しかも、社会保障制度は、国民の生活に直結し、かつ国の経済活動にも影響を与えるために、現代行政の中でも大きな位置を占めるに至っている。</p> <p>この授業は、現代行政において重要性を増しつつある社会保障について、実際に政策立案に携わった経験も踏まえ、法政策とは何かという点にポイントを置き、基本的に講義形式で行う。</p> <p>具体的には、総論として、法政策とは何か、人口問題と社会保障、社会保障の国際比較、について講義した後、各論として、医療を中心に取り上げる。また、年金および社会福祉についても講義する。</p>		
授 業 の 方 法	講義方式による。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少子高齢化・経済成長と社会保障 (人口構造・経済構造と社会保障)</li> <li>2. 社会保障・法・政策 (社会保障と法・制度・政策の意味)</li> <li>3. 日本の社会保障制度の沿革 (日本の社会保障の歴史と現状)</li> <li>4. 日本の社会保障の体系と特質 (社会保障の国際比較、社会保険方式の意義)</li> <li>5. 医療保険制度 1 (医療保険制度の概説と政策課題)</li> <li>6. 医療保険制度 2 (医療保険制度体系論)</li> <li>7. 医療供給制度 1 (医療供給制度の基本問題と政策課題)</li> <li>8. 医療供給制度 2 (医療供給制度の政策手法。診療報酬制度等)</li> <li>9. 介護保険制度 (介護保険制度の概説と政策課題)</li> <li>10. 生活保護および福祉制度 (生活保護および福祉制度の概説と政策課題)</li> <li>11. 年金制度 1 (公的年金制度の概説と政策課題)</li> <li>12. 年金制度 2 (前回の補足および企業年金制度の概説と政策課題)</li> <li>13. 社会手当 (児童手当・児童扶養手当の概説と政策課題)</li> <li>14. 社会保障と税制 (社会保障・税の一体改革等)</li> <li>15. 総括 (全体のまとめ)</li> </ol>		
教 科 書	授業の中で指定する。		
参 考 書	島崎謙治『医療政策を問いなおす』(ちくま新書, 2015 年)		
成績評価の方法	レポートによる。		
他の授業との関連・履修上の注意	履修しようとする者は初回の授業に必ず出席すること。 初回にあらゆる政策の基礎となる人口問題の解説を行う。この回だけでも聴講することを薦める。		

## 8. 国際保健学専攻との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
P. 56	41918328	国際保健政策学特論 I (渋谷)	2	S1・A1	火	3, 4	医学部 3号館 5階 N507 セミナー室
P. 58	41918329	国際保健政策学特論 II (渋谷)	2	A2・W	火	3, 4	医学部 3号館 5階 N507 セミナー室



科 目 名	国際保健政策学 I		[科目番号：41918328]
タ ー ム	S1A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 4&comma; 火 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	渋谷 健司、野村 周平		
授 業 の 目 的	<p>本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、イノベーション、疾病負荷、健康格差、健康の社会的決定要因等である。</p> <p>This course introduces the principles and theories of major global health challenges and discusses current controversies in improving global population health&amp;comma; as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret issues and challenges for policy. Topics will include: global health policy and governance&amp;comma; innovations in global health&amp;comma; disease burden&amp;comma; health equity&amp;comma; social determinants of health&amp;comma; etc.</p>		
授 業 の 方 法	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive&amp;comma; consisting of lectures&amp;comma; exercises and cases discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze&amp;comma; interpret and propose solution to the current global health topics.</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>4 月 16 日から 6 月 4 日 (1-7) および 9 月 24 日から 11 月 5 日 (8-14) まで。 April 16th -- June 4th (1-7) &amp; September 24th -- November 5th (8-14) 講義スケジュール (予定)</p> <p>Tentative course schedule is as the following:</p> <p>Lecture Topic</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Global health policy: an overview</li> <li>2 Introduction to demographic analysis</li> <li>3 Introduction to health system and innovation</li> <li>4 Sustainable Development Goals global policy and health agenda</li> <li>5 Global burden of disease (1)</li> <li>6 Comparative risk assessment</li> <li>7 Global burden of disease (2)</li> <li>8 Population aging and its implications to health systems</li> <li>9 Universal health coverage progress assessment</li> <li>10 Social and cultural determinants of health</li> <li>11 Equity in health &amp; social inclusion (1)</li> <li>12 Equity in health &amp; social inclusion (2)</li> <li>13 Health system monitoring and program evaluation</li> </ol>		

	14 Final exam
教科書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。</p> <p>Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
参考書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。</p> <p>Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
成績評価の方法	<p>宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%)</p> <p>Problem sets (30%), class participation (20%), and final exam (50%)</p>
他の授業との関連・履修上の注意	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive</p> <p>特別講義や講義資料は国際保健政策学教室の HP を参照のこと。</p> <p>Information on special lectures and course material will be available on the GHP website.</p>

科 目 名	国際保健政策学Ⅱ			[科目番号：41918329]
タ ー ム	A2W	単 位 数	2	
曜日・授業時間帯	火 4&comma; 火 3			
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担 当 教 員	渋谷 健司、野村 周平			
授 業 の 目 的	<p>本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、保健医療制度と皆保険 (UHC)、慢性疾患 (NCDs)、保健財政、保健サービス、保健制度パフォーマンス分析、保健ガバナンス等である。</p> <p>This course introduces the principles and theories of major global health challenges and discusses current controversies in improving global population health&amp;comma; as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret issues and challenges for policy. Topics will include: health systems and universal health coverage (UHC)&amp;comma; non-communicable diseases (NCDs)&amp;comma; population aging&amp;comma; health financing&amp;comma; health service quality&amp;comma; health system performance assessment&amp;comma; health governance&amp;comma; etc.</p>			
授 業 の 方 法	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive&amp;comma; consisting of lectures&amp;comma; exercises and cases discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze&amp;comma; interpret and propose solution to the current global health topics.</p>			
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>11月19日から1月21日 (1-8) および 2月4日から3月3日 (9-12) まで。 November 19th -- January 21st (1-8) &amp; February 4th -- March 3rd (9-12) 講義スケジュール (予定)</p> <p>Tentative course schedule is as the following:</p> <p>Lecture Topic</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Global health governance</li> <li>2 Health system performance assessment</li> <li>3 Health service quality</li> <li>4 Economic evaluation and cost-effective analysis</li> <li>5 Global dimensions of mental health</li> <li>6 Innovations in maternal and child health</li> <li>7 Private sector contribution to global health</li> <li>8 Disease outbreaks and international health regulations</li> <li>9 Data innovations</li> <li>10 Cancer epidemiology and prevention</li> <li>11 NCD management (promotion&amp;comma; prevention and treatment)</li> <li>12 Final exam</li> </ol>			

教科書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。</p> <p>Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
参考書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。</p> <p>Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
成績評価の方法	<p>宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%)</p> <p>Problem sets (30%)&amp;comma; class participation (20%)&amp;comma; and final exam (50%)</p>
他の授業との関連・履修上の注意	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive&amp;comma; consisting of lectures&amp;comma; exercises and cases discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze&amp;comma; interpret and propose solution to the current global health topics.</p>





